

東通原子力発電所

温排水影響調査結果報告書

令和7年度  
(第1四半期報)

令和7年  
青森県



## ま え が き

青森県及び東北電力株式会社は、東通原子力発電所の温排水が施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握するため、「東通原子力発電所温排水影響調査実施計画」に基づき、平成15年4月から、海洋環境と海生生物の調査を実施しています。

なお、海洋環境調査項目（取放水温度、水温・塩分、流況、水質、底質）では、温排水の影響による水温上昇域の把握と取放水に伴い海洋環境が変化していないかを確認することを、海生生物調査項目（卵・稚仔、プランクトン、海藻草類、底生生物）では、温排水の影響により発電所前面海域において海生生物が変化していないかを確認することを目的としています。

本報告書は、青森県及び東北電力株式会社が令和7年4月から6月までの令和7年度第1四半期において実施した原子力施設前面海域及び周辺海域における水温・塩分等の海洋環境と卵・稚仔等の海生生物の調査結果をとりまとめたものです。

令和7年11月  
青森県



# 目 次

## 1. 調査概要

(1) 調査機関	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査項目	1
(4) 調査位置	2
(5) 調査結果の概要	10

## 2. 東通原子力発電所周辺海域における海域環境調査結果

[青森県実施分]

(1) 水温・塩分	12
-----------	----

## 3. 東通原子力発電所前面海域における海域環境調査結果

[東北電力(株)実施分]

(1) 取放水温度	19
(2) 水温・塩分	21
(3) 流 況	28
(4) 水 質	29
(5) 底 質	31
(6) 卵・稚仔	33

(7) プランクトン.....	36
(8) 海藻草類.....	40
(9) 底生生物（メガロベントス）.....	42

## 資料編

1. 青森県実施分.....	45
2. 東北電力(株)実施分.....	47

## 1. 調査概要

### (1) 調査機関

青森県・地方独立行政法人 青森県産業技術センター水産総合研究所  
東北電力株式会社

### (2) 調査期間

青森県：令和7年6月13日

東北電力(株)：令和7年4月1日～6月30日

なお、今回の調査は発電所停止中に実施したものである。

注1) 発電所停止中とは、発電所稼働前や定期検査等の理由により、調査時の電気出力が0kW となっていることを示す。

注2) 発電所稼働中とは、調査時の電気出力が確認されていることを示す。

### (3) 調査項目

調査項目を表-1.1～1.2に示す。

表-1.1 調査項目 [青森県実施分]

調査項目		調査目的	調査点数	調査水深
海洋環境	水温・塩分	温排水の影響による水温上昇域を確認する。	5点	表層、10、20、30、50m

表-1.2 調査項目 [東北電力(株)実施分]

調査項目		調査目的	調査点数	調査水深	
海洋環境	取放水温度	取放水温度差が7℃以下であることを確認する。	取水口および放水口		
	水温・塩分	温排水の影響による水温上昇域を確認する。	19点	0.5m、1~10mまで1m間隔、15m、20m、海底上2m	
	流況 (流向・流速)	取放水に伴い、周辺海域の海水流動が変化していないことを確認する。	2点	2m	
	水質	水素イオン濃度(pH)	取放水に伴い、水質が過年度と比較して変化していないことを確認する。	8点	0.5m、5m、水深21m未満の場合は海底上1m、水深21m以深の場合は海面下20m
		化学的酸素要求量(COD)			
		溶存酸素量(DO)			
		塩分			
		透明度			
		浮遊物質量(SS)			
		水温			
全窒素(T-N)					
全リン(T-P)					
底質	化学的酸素要求量(COD)	取放水に伴い、底質が過年度と比較して変化していないことを確認する。	3点	海底	
	強熱減量(IL)				
	全硫化物(T-S)				
	粒度組成				
海生生物	卵・稚仔	温排水の影響により、発電所前面海域において出現種や出現量が過年度と比較して変化していないことを確認する。	6点	0.5m、5m	
	プランクトン		6点	0~5m、水深21m未満の場合は5m~海底上1m、水深21m以深の場合は5~20m	
				0.5m、5m	
	海藻草類、底生生物(メガロベントス)		4測線	水深20m以浅	

(4) 調査位置

調査位置図を図-1.1~1.7に示す。調査海域は、東通原子力発電所から南偏した調査点を設定した。

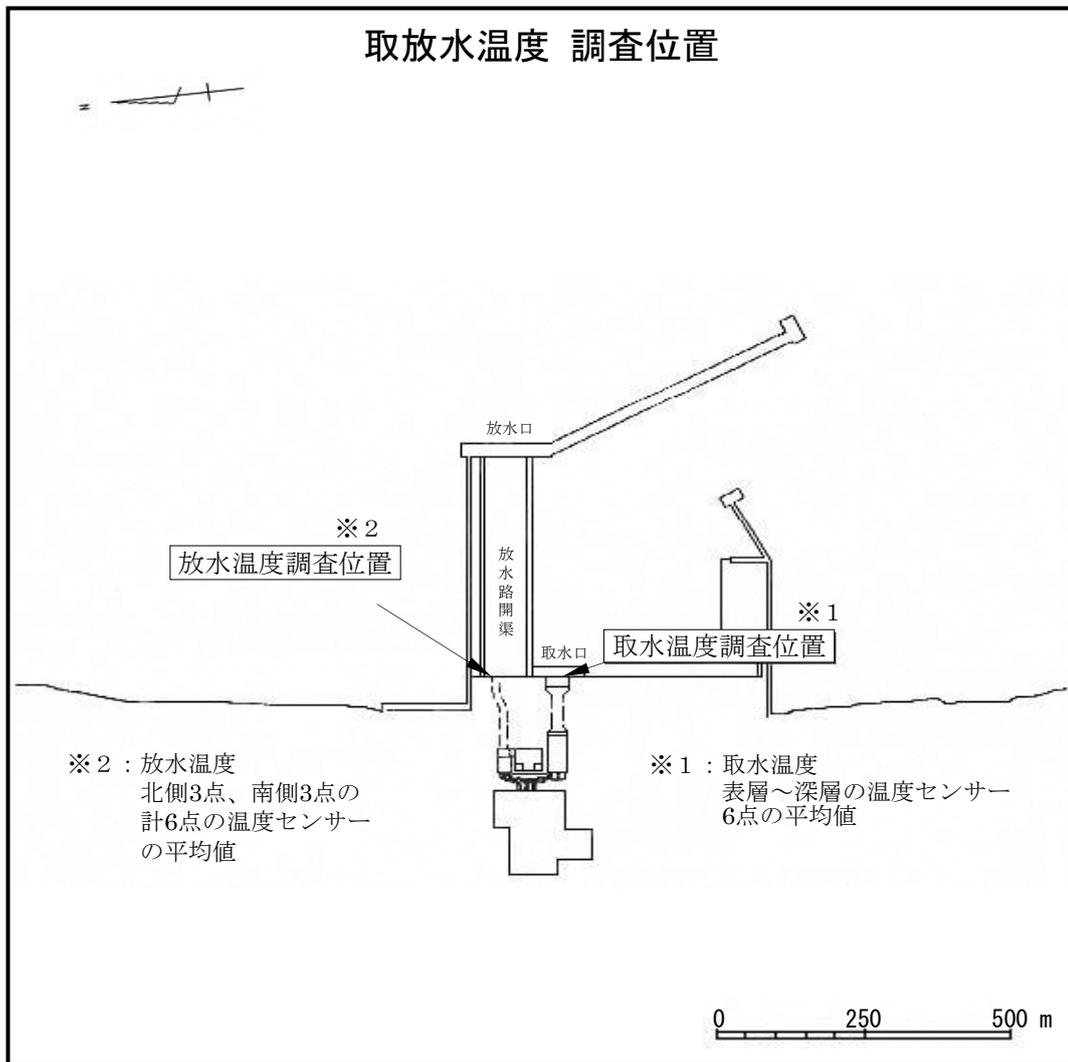


図-1.1 取放水温度 調査位置

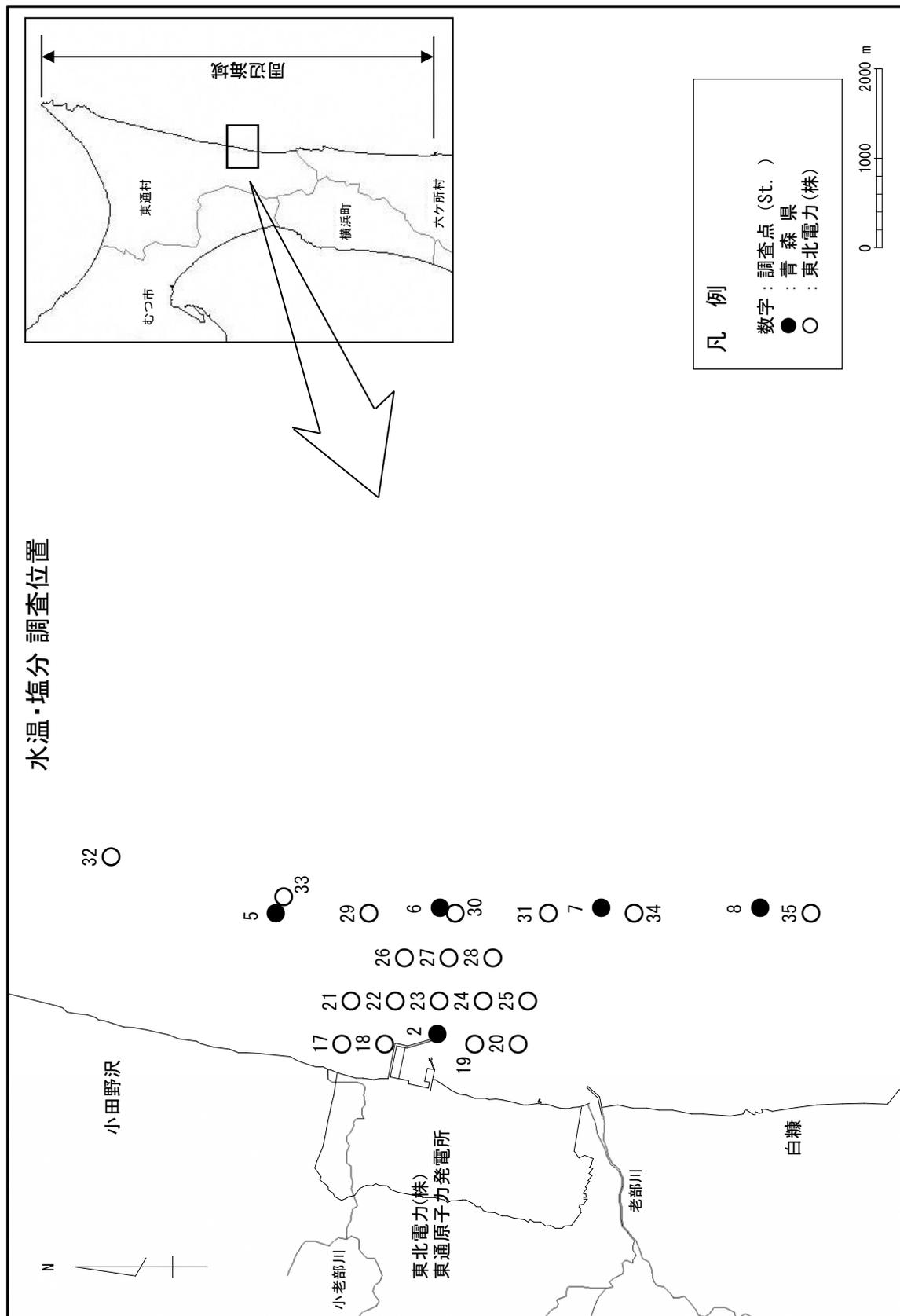
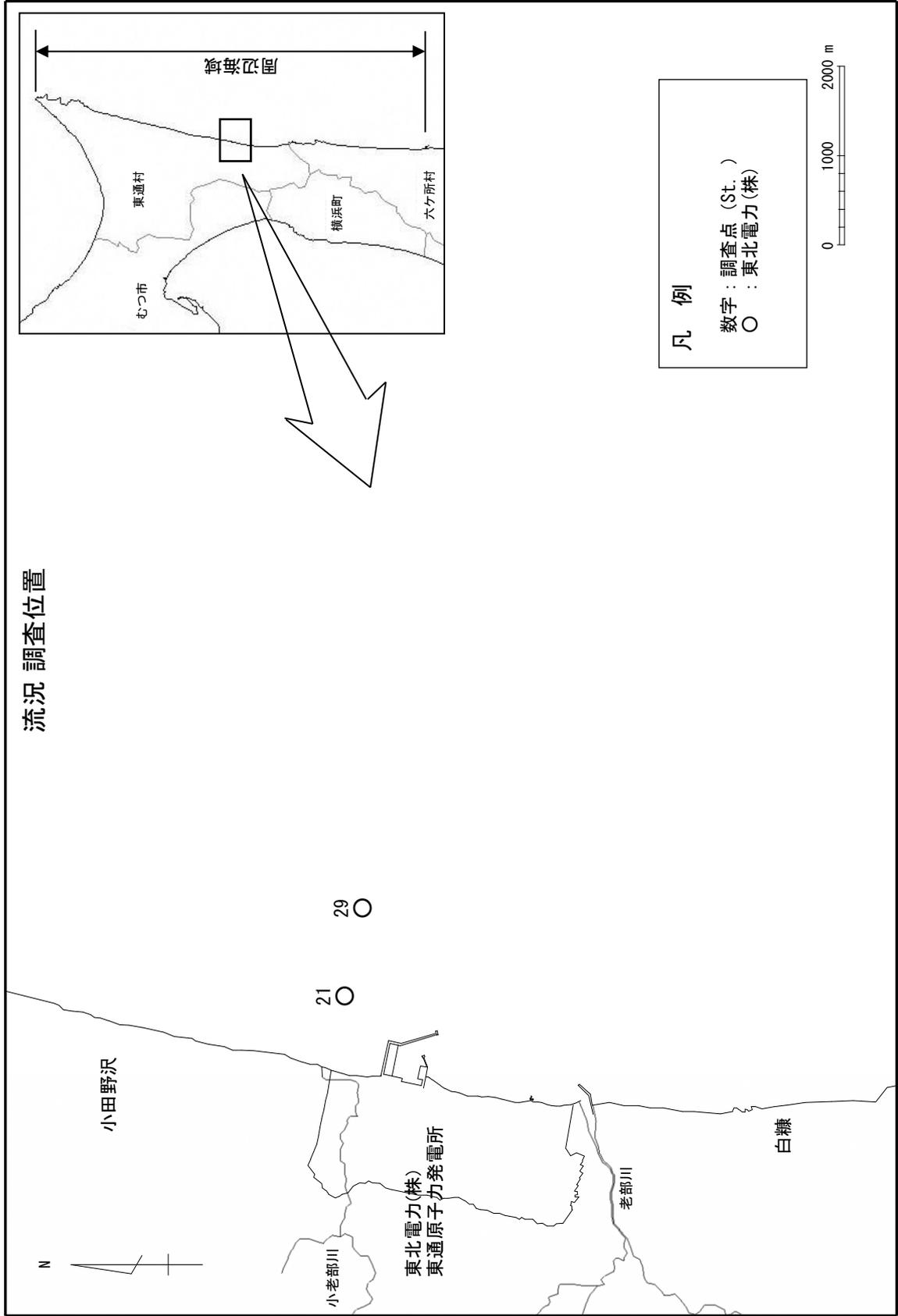
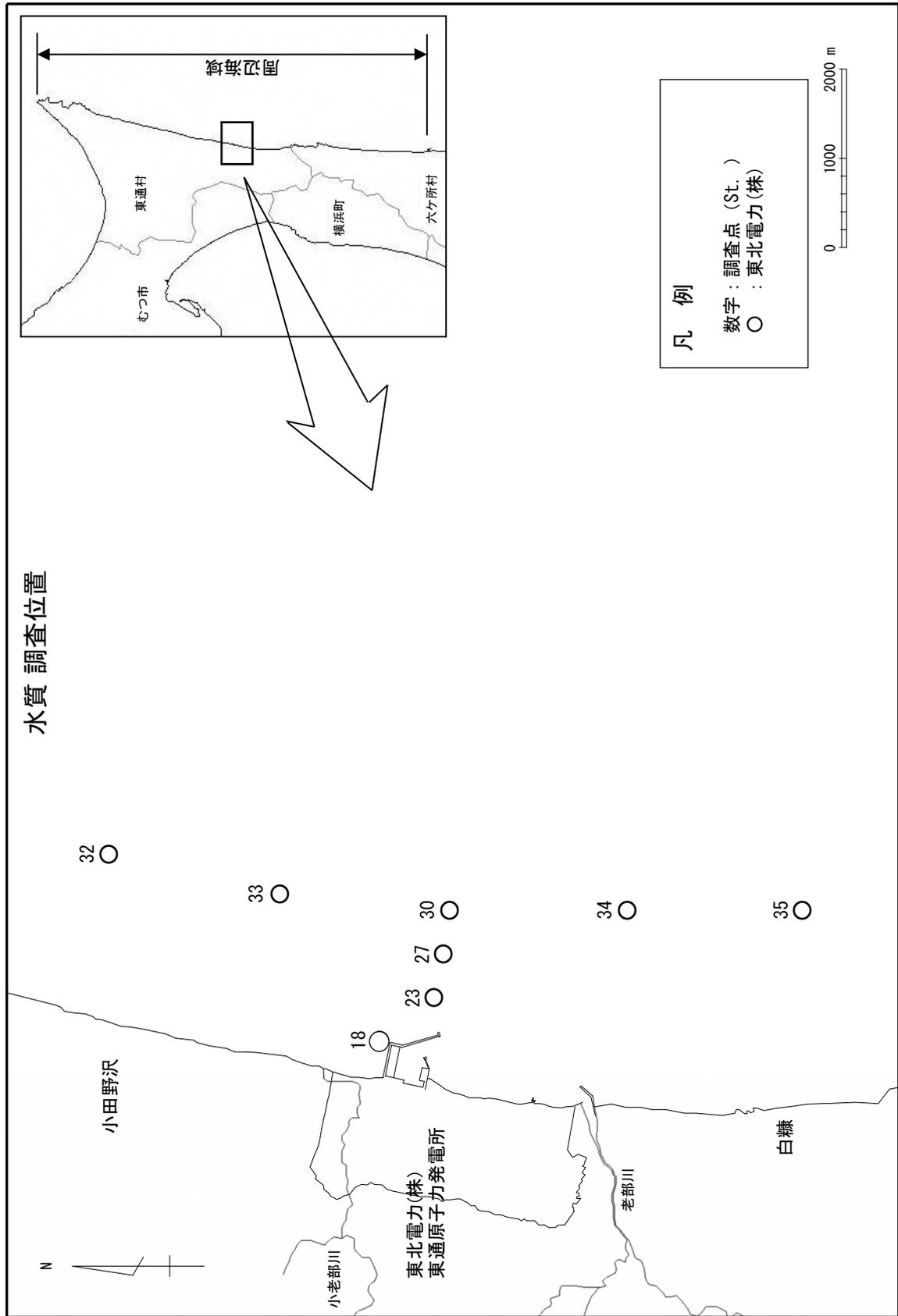


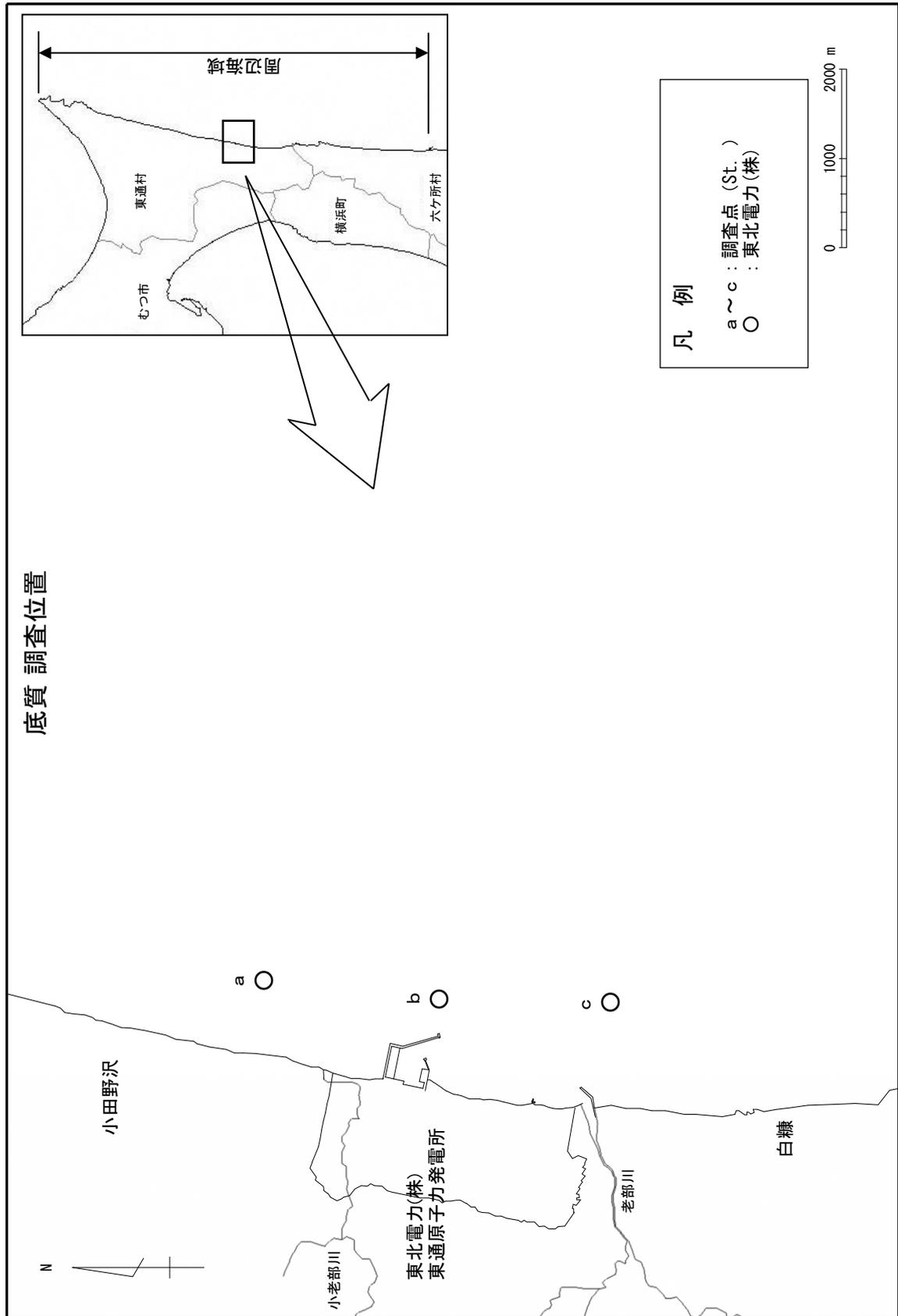
図-1.2 水温・塩分 調査位置



図一.3 流況 調査位置



図一.4 水質調査位置



図一.1.5 底質 調査位置

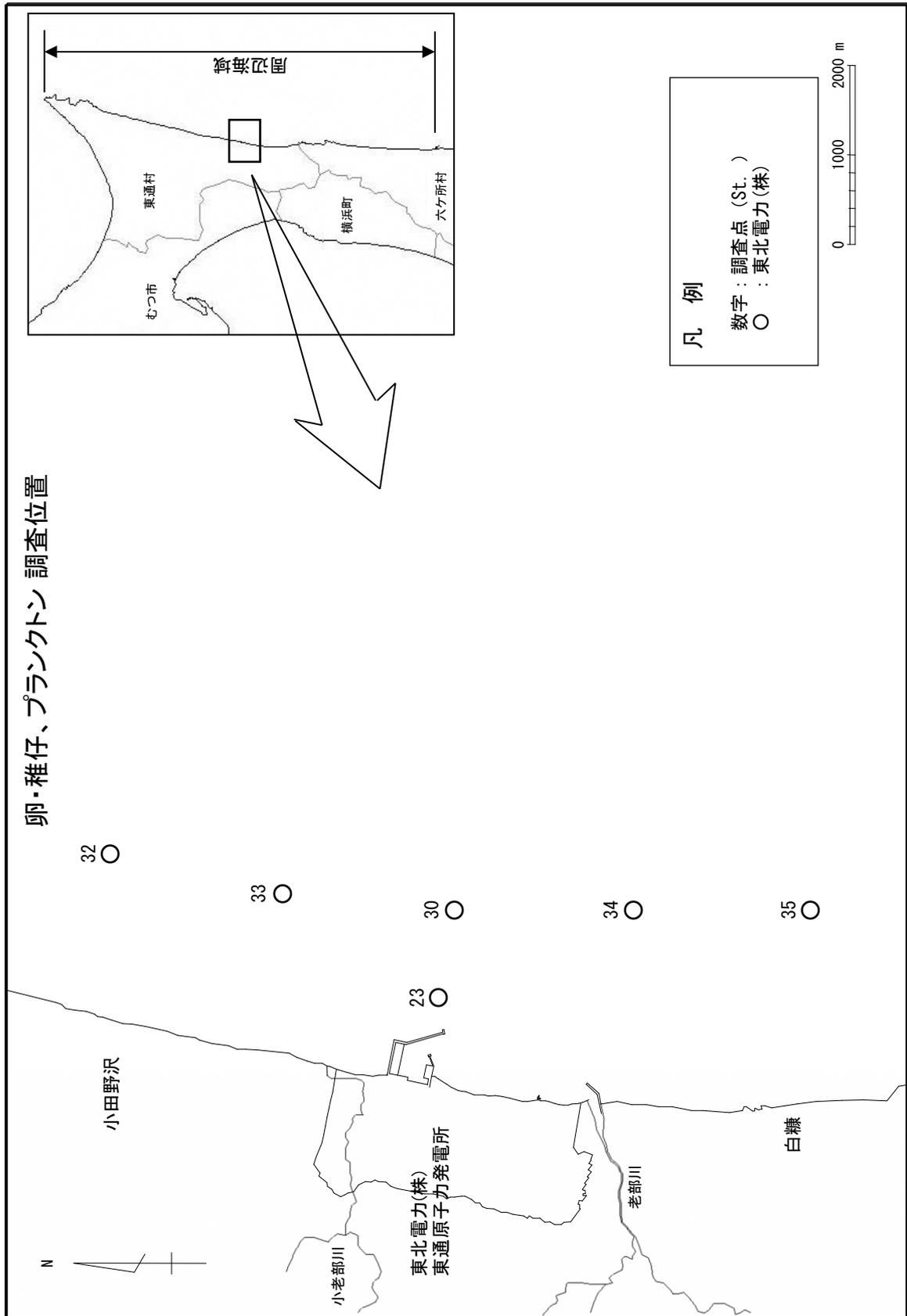


図-1.6 卵・稚仔、プランクトン 調査位置

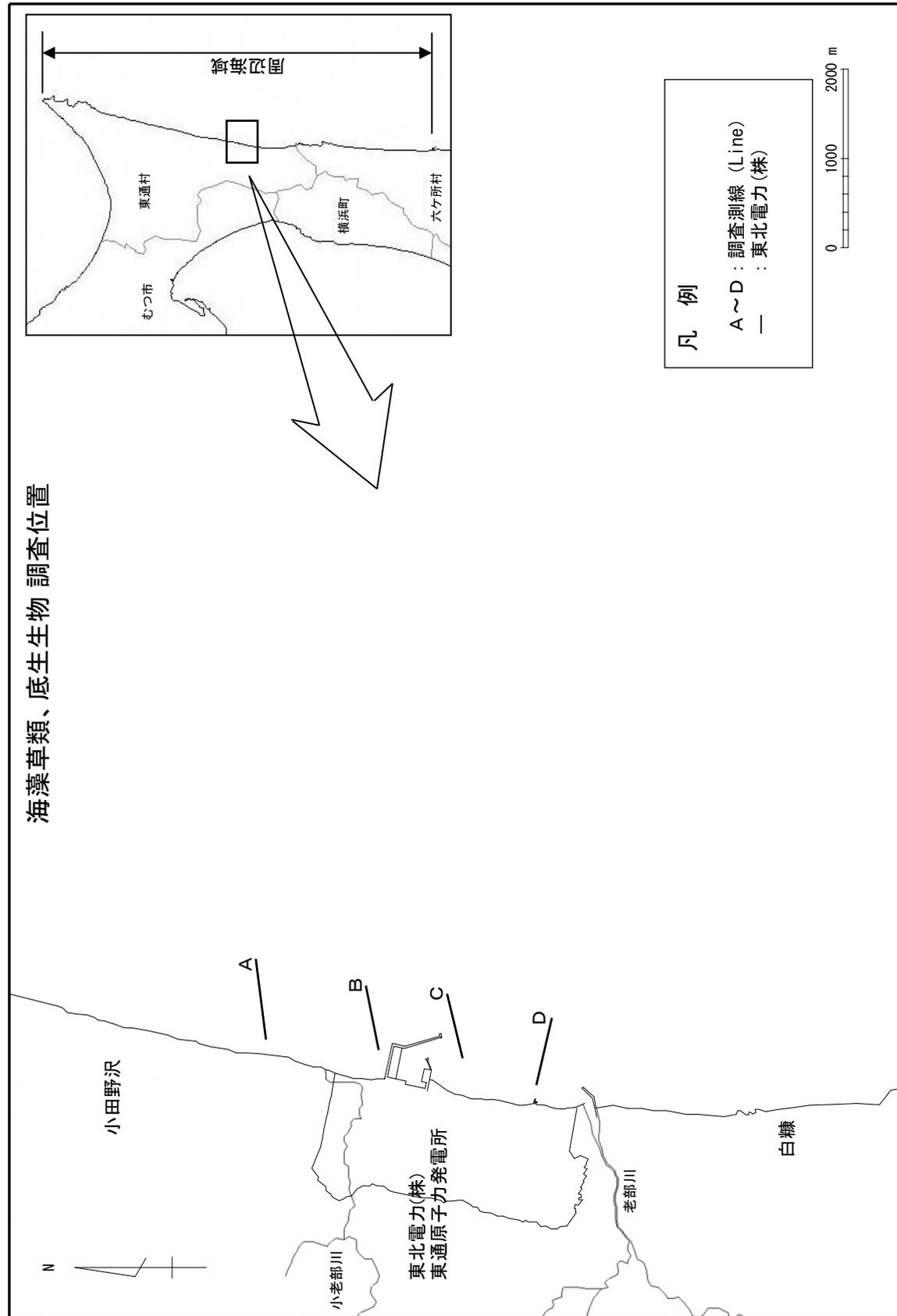


図-1.7 海藻草類、底生生物 調査位置

## (5) 調査結果の概要

今期の調査において、青森県実施分及び東北電力実施分ともに温排水の影響と考えられる結果は観測されなかった。

なお、今期の調査は発電所停止中の調査であった。

### a. 青森県実施分

令和7年度第1四半期（令和7年6月13日）に青森県が実施した調査結果の概要は、以下のとおりであった。

#### (a) 水温・塩分

全5調査点において、水温・塩分の測定を行った。水温は、表層、全体、水温較差において過去同期の停止中の範囲内にあった。

なお、塩分は、海域全体で一様であった。

b. 東北電力(株)実施分

令和7年度第1四半期(令和7年4月1日~6月30日)に、東北電力(株)が実施した調査結果の概要は、以下のとおりであった。

(a) 取放水温度

調査期間を通じて、取放水温度差は、7°C以内に収まっていた。

(b) 水温・塩分

全19調査点において、水温・塩分の測定を行った。水温は、0.5m層、全体、水温較差において過去同期の停止中の範囲内であった。

なお、塩分は、海域全体で一様であった。

(c) 流況

全2調査点における流向別流速出現頻度は、過去同期と同様の傾向であった。

(d) 水質

全8調査点において採水し、水質分析を行い、水素イオン濃度(pH)、溶存酸素量(DO)、塩分、透明度、浮遊物質(SS)、水温、全窒素(T-N)、全リン(T-P)は、過去同期の範囲内であった。化学的酸素要求量(COD)は、酸性法では過去同期の範囲内であったが、アルカリ性法では過去同期の範囲を上回っていた。

(e) 底質

全3調査点において採泥し、底質分析を行い、全調査点において、化学的酸素要求量(COD)、強熱減量(IL)、全硫化物(T-S)は、過去同期の範囲内であった。粒度組成は、St. a及びSt. cにおいて過去同期の範囲内であったが、St. bにおいて細砂が過去同期の範囲を下回っていた。

(f) 卵・稚仔

卵の出現種類数、出現平均個数は、過去同期と同様の傾向であった。

稚仔の出現種類数、出現平均個体数は、過去同期の範囲を上回っていたが、過去と同様の出現傾向にあり、変化はみられなかった。

(g) プランクトン

動物プランクトンの出現種類数、出現平均個体数は、過去同期と同様の傾向であった。

植物プランクトンの出現種類数、出現平均細胞数は、過去同期と同様の傾向であった。

(h) 海藻草類、底生生物

海藻草類の出現種類数は、過去同期と同様の傾向であった。

底生生物の出現種類数、出現平均個体数は、過去同期と同様の傾向であった。

## 2. 東通原子力発電所周辺海域における海域環境調査結果

[青森県実施分]

### (1) 水温・塩分

調査位置：St. 2、5～8（5調査点、図－1.2参照）

発電所稼働状況：停止中

#### a. 水温

##### (a) 水温（表層）

表層における水温水平分布を図－2.1に、過去同期の水温範囲を表－2.1に示す。

今期の表層における水温は $12.9^{\circ}\text{C}$ ～ $13.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

なお、表層における水温の経年変化は図－2.2に示す。

##### (b) 水温（全体）

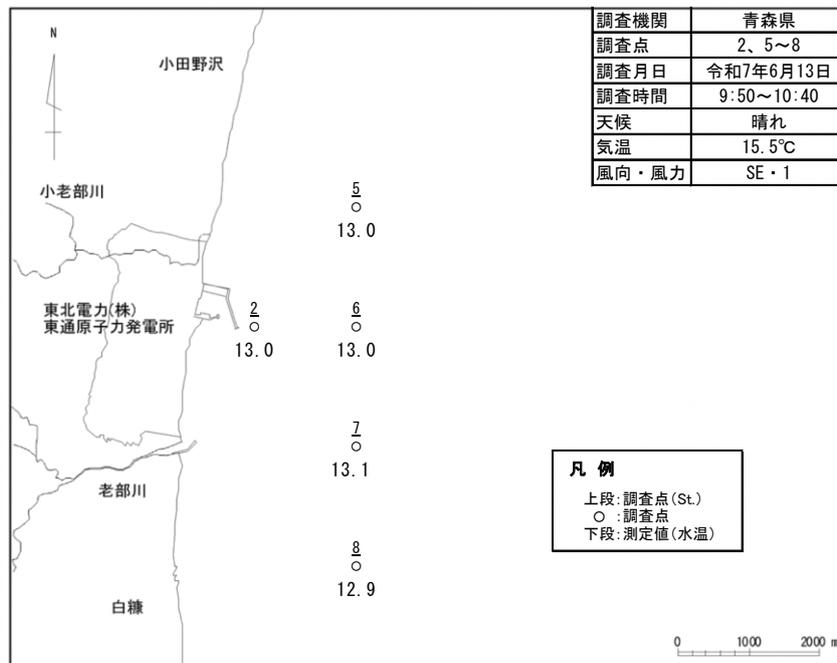
水温鉛直分布を図－2.3に、全体（50m層まで）における過去同期の水温範囲を表－2.2に示す。

今期の全体における水温は $11.9^{\circ}\text{C}$ ～ $13.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

##### (c) 水温較差

表層における放水口前面（St. 2）と発電所周辺（St. 5～8）の水温較差を表－2.3に、過去同期の水温較差の範囲を表－2.4に示す。

今期の水温較差は $-0.1^{\circ}\text{C}$ ～ $0.1^{\circ}\text{C}$ の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。



図－2.1 水温水平分布図（表層）

表－2.1 過去同期の水温範囲（表層）

（単位：℃）

調査時期	第1四半期
発電所停止中	10.8～16.5
発電所稼働中	12.0～16.4

注 1) 発電所停止中の水温範囲は、平成15年度～平成17年度、平成20年度、平成23年度～令和6年度のものである。

注 2) 発電所稼働中の水温範囲は、平成18年度～平成19年度、平成21年度～平成22年度のものである。

表－2.2 過去同期の水温範囲（全体）

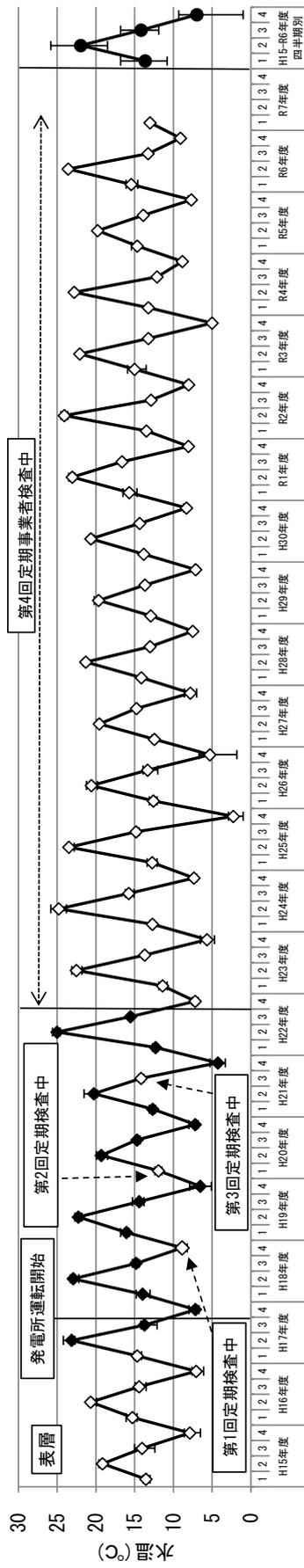
（単位：℃）

調査時期	第1四半期
発電所停止中	10.0～16.5
発電所稼働中	11.0～16.4

注 1) 青森県実施分における全体の水温は、水深50m層までを集計している。

注 2) 発電所停止中の水温範囲は、平成15年度～平成17年度、平成20年度、平成23年度～令和6年度のものである。

注 3) 発電所稼働中の水温範囲は、平成18年度～平成19年度、平成21年度～平成22年度のものである。



図一2.2 水溫の経年変化(表層)

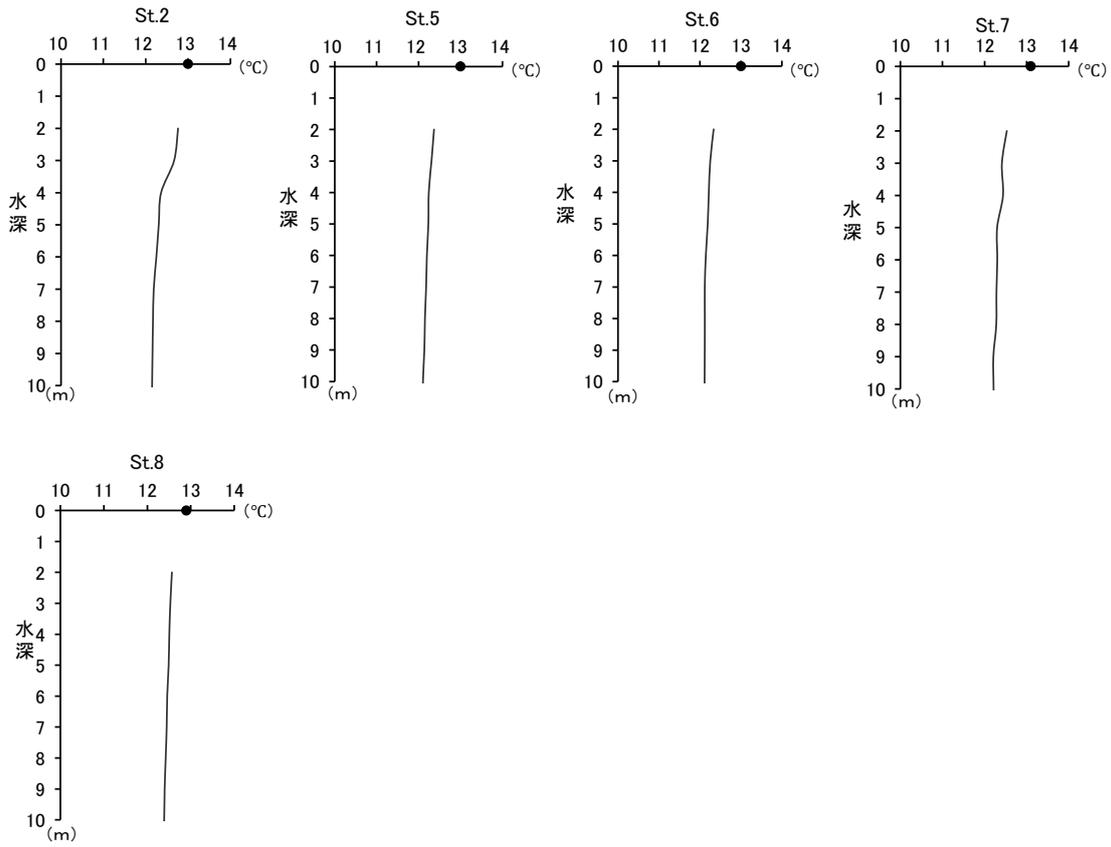


図-2.3 (1) 水温鉛直分布図 (水深 10m以浅)

注 1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外はCTDデータ。

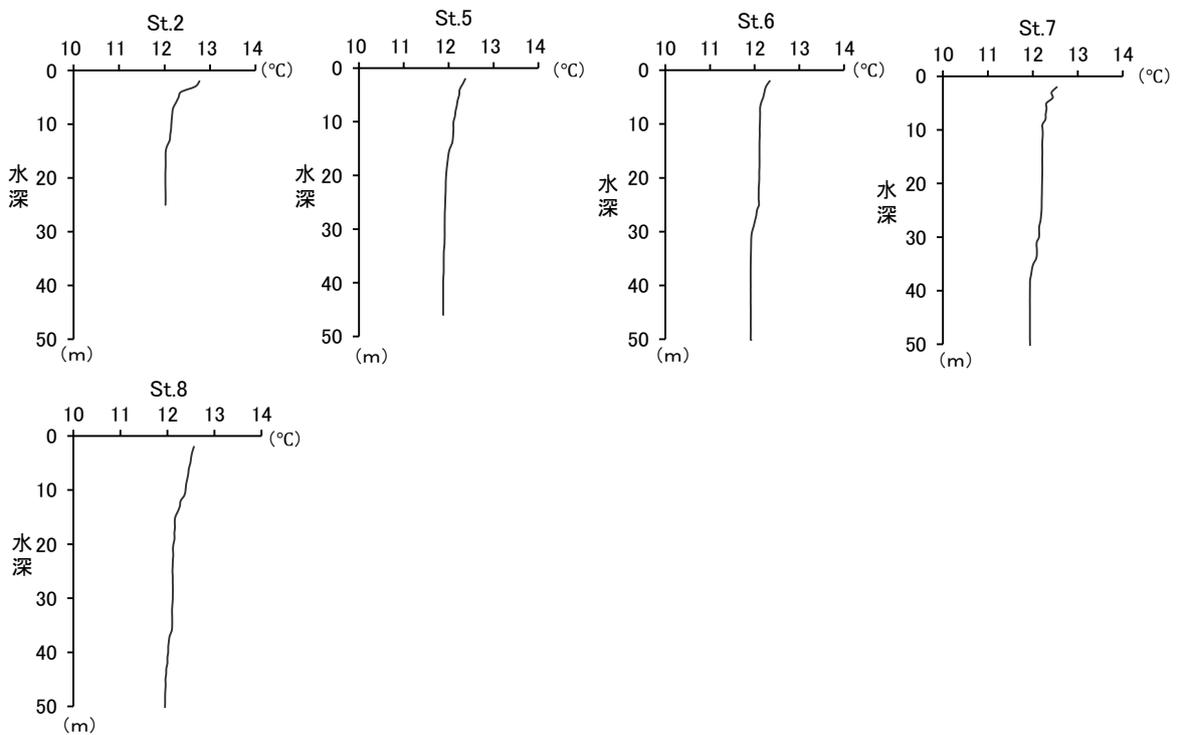


図-2.3 (2) 水温鉛直分布図 (全体)

表－2.3 放水口前面と発電所周辺の水溫較差（表層）

（単位：℃）

比較調査点	St.2との 水溫較差
St.5	0.0
St.6	0.0
St.7	-0.1
St.8	0.1

表－2.4 過去同期の水溫較差範囲（表層）

（単位：℃）

調査時期	第1四半期
発電所停止中	-2.4～1.8
発電所稼働中	-0.5～0.4

注 1) 発電所停止中の水溫較差範囲は、平成15年度～平成17年度、平成20年度、平成23年度～令和6年度のものである。

注 2) 発電所稼働中の水溫較差範囲は、平成18年度～平成19年度、平成21年度～平成22年度のものである。

## b. 塩分

表層における塩分水平分布を図-2.4に示す。表層における塩分は全調査点で33.8であった。

また、塩分鉛直分布を図-2.5に示す。全体の塩分は33.8～33.9であった。

塩分は、海域全体で一様であった。

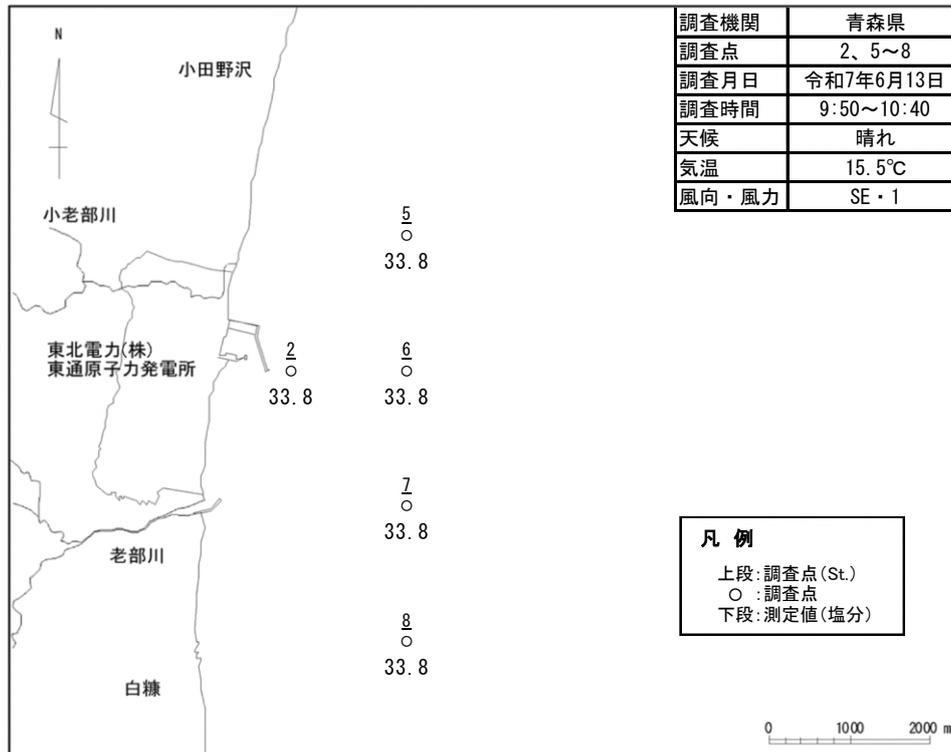


図-2.4 塩分水平分布図（表層）

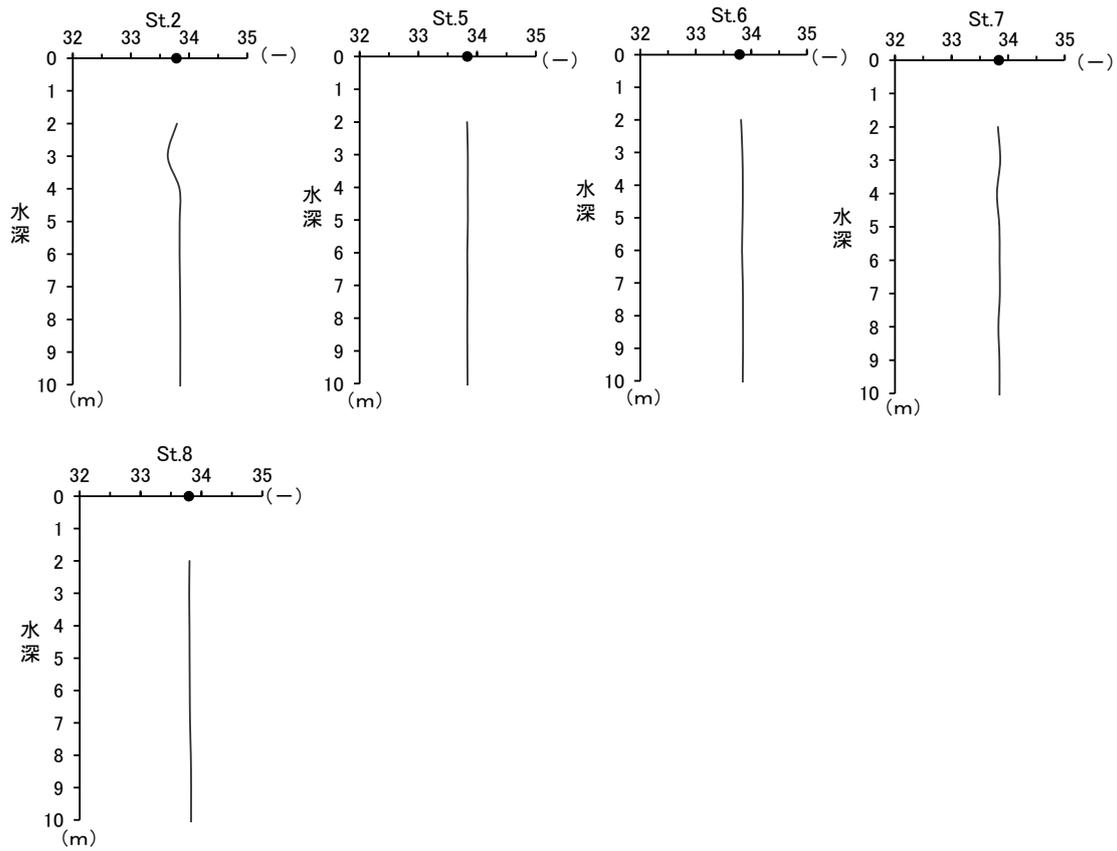


図-2.5 (1) 塩分鉛直分布図 (水深 10m 以浅)

注 1) 表層 (●で示したもの) は採水データ、それ以外は CTD データ。

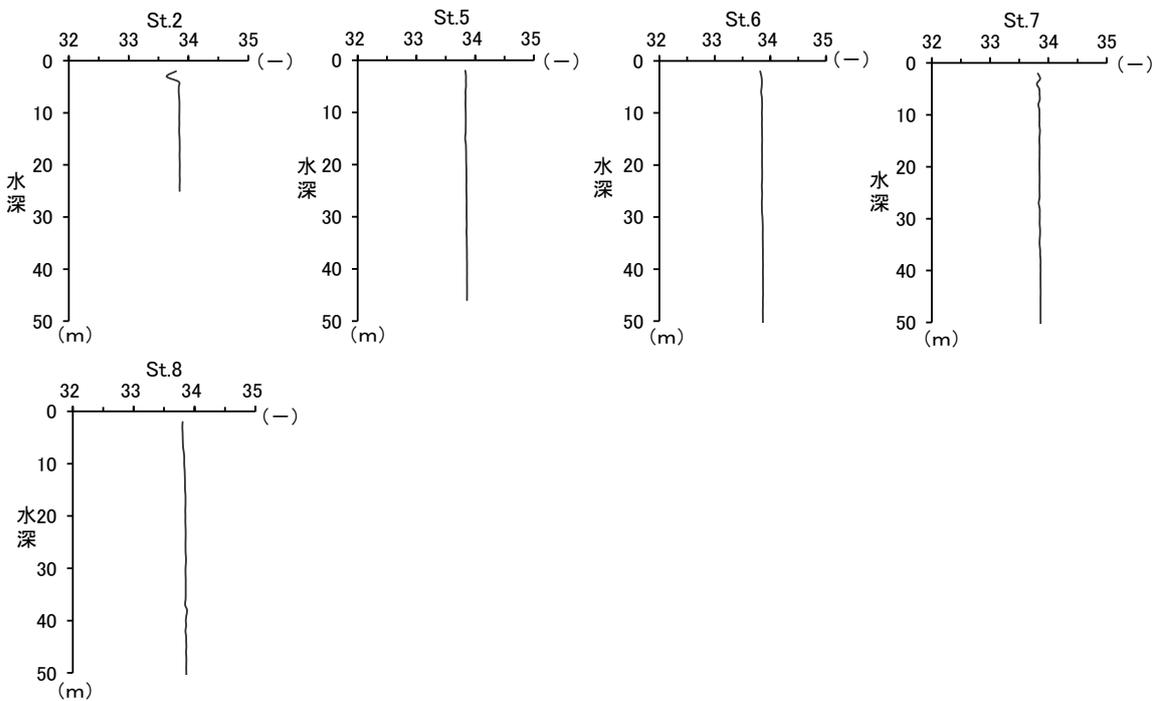


図-2.5 (2) 塩分鉛直分布図 (全体)

### 3. 東通原子力発電所前面海域における海域環境調査結果

[東北電力(株)実施分]

#### (1) 取放水温度

調査位置：取水口、放水口（2調査点、図-1.1参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表-3.1に示す。

取水口の水温は、8.2℃～16.5℃の範囲であり、月毎の平均値は9.6℃～14.5℃の範囲であった。

放水口の水温は、8.6℃～18.1℃の範囲であり、月毎の平均値は10.0℃～15.6℃の範囲であった。

なお、取放水温度における経年変化は図-3.1に示す。

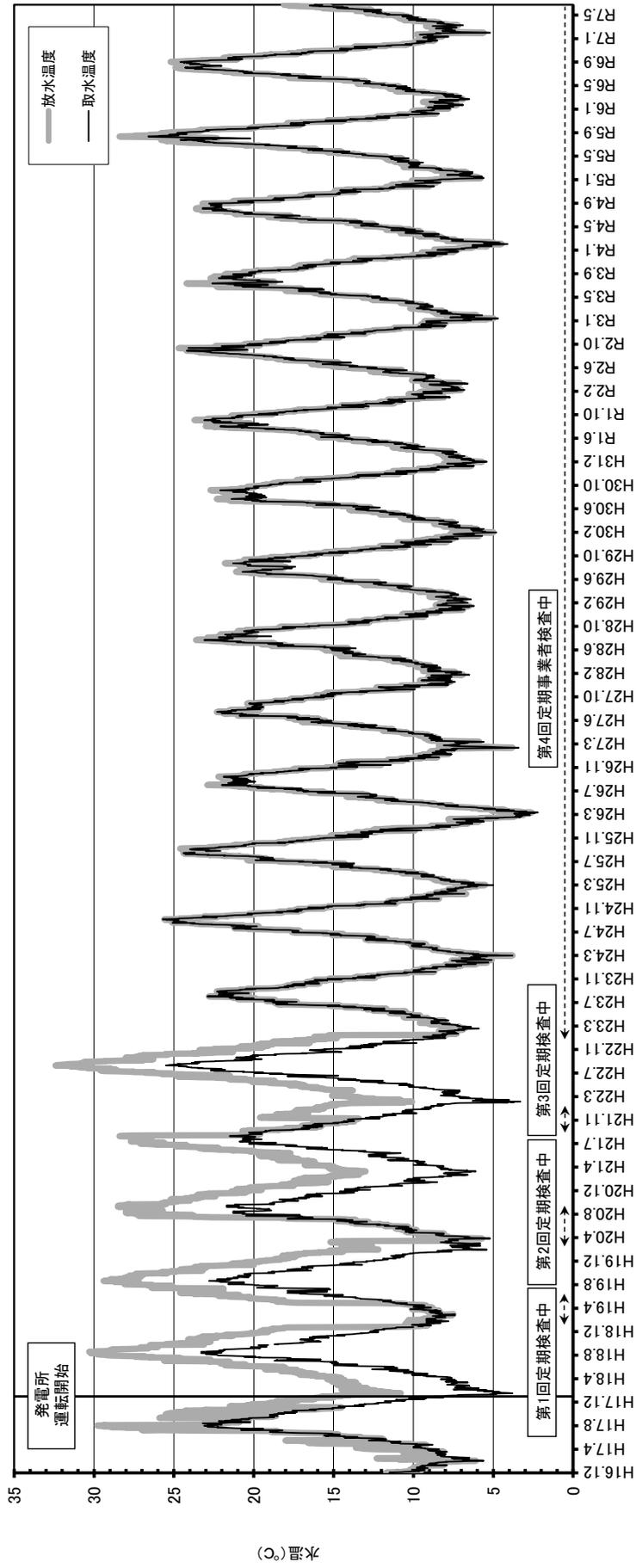
表-3.1 取放水温度調査結果

(単位：℃)

項目		年月	令和7年		
			4月	5月	6月
取水口	最大値		10.4	13.1	16.5
	最小値		8.2	10.1	12.0
	月毎の平均値		9.6	11.7	14.5
放水口	最大値		10.9	13.6	18.1
	最小値		8.6	10.6	12.6
	月毎の平均値		10.0	12.2	15.6

注1) 水温は、日平均値である。

注2) 放水口の温度上昇は、発電所安全維持に必要な機器の冷却のため、海水と熱交換していることによる。



図一3.1 取放水温度における経年変化（日平均）

## (2) 水温・塩分

調査位置：St. 17～35（19 調査点、図－1.2 参照）

発電所稼働状況：停止中

### a. 水温

#### (a) 水温（0.5m層）

0.5m層における水温水平分布を図－3.2 に、過去同期の水温範囲を表－3.2 に示す。

今期の0.5m層における水温は11.6℃～12.3℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

なお、0.5m層における水温の経年変化は図－3.3 に示す。

#### (b) 水温（全体）

水温鉛直分布を図－3.4 に、全体（20m層まで）における過去同期の水温範囲を表－3.3 に示す。

今期の全体における水温は11.3℃～12.3℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

#### (c) 水温較差

放水口前面（St. 22、23）と発電所周辺（St. 29～35）の水温を比較した調査点の位置関係を図－3.5 に、0.5m層における水温較差を表－3.4 に、過去同期の水温較差の範囲を表－3.5 に示す。

今期の水温較差は-0.7℃～0.1℃の範囲であり、過去同期の停止中の範囲内にあった。

#### (d) 調査時の流れ

調査前日から調査当日の流れは、北流～南流傾向がみられた。調査時は北流傾向を示していた。

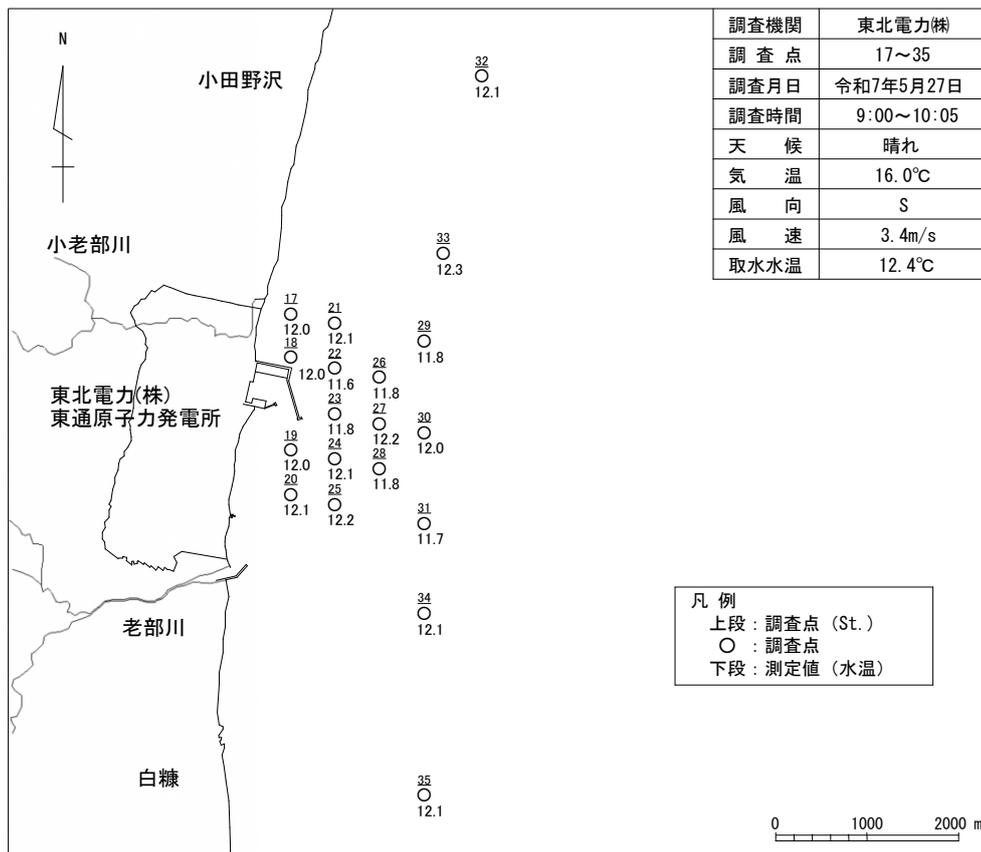


図-3.2 水温水平分布図 (0.5m層)

表-3.2 過去同期の水温範囲 (0.5m層)

(単位: °C)

調査時期	第1四半期
発電所停止中	9.7~14.3
発電所稼働中	9.1~12.2

注1) 発電所停止中の水温範囲は、平成16年度、平成20年度、平成23年度~令和6年度のものである。

注2) 発電所稼働中の水温範囲は、平成17年度~平成19年度、平成21年度~平成22年度のものである。

表-3.3 過去同期の水温範囲 (全体)

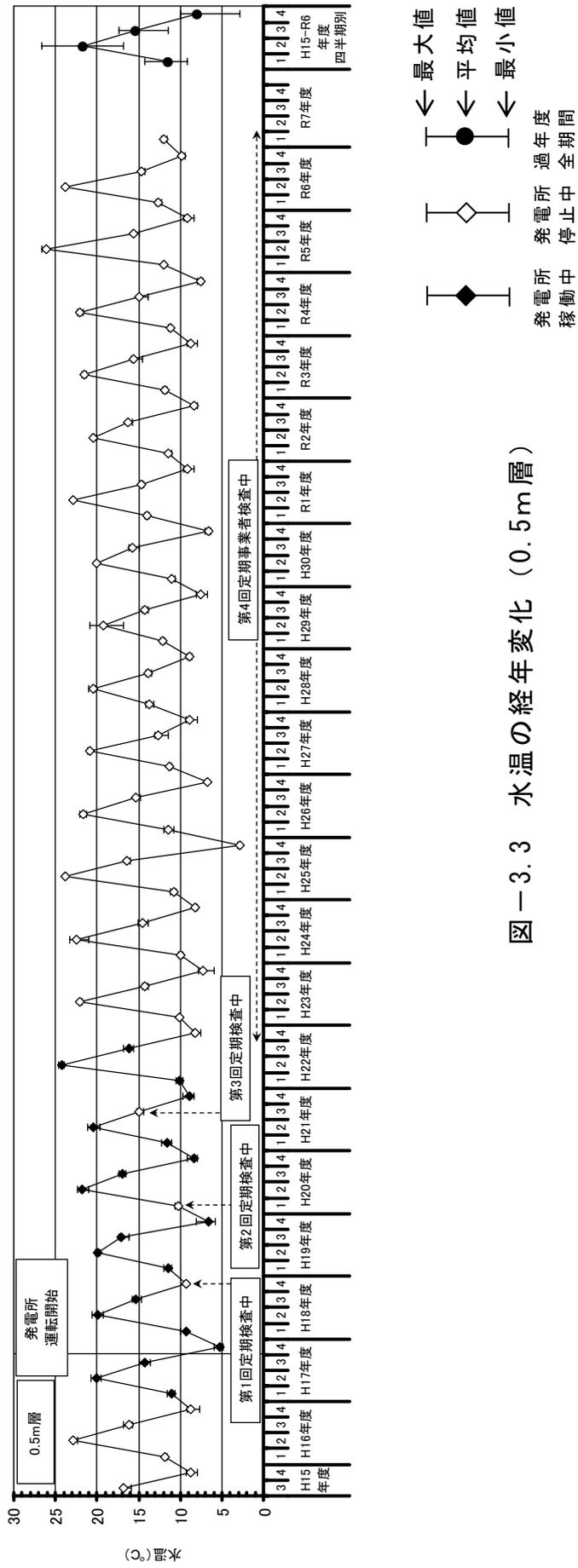
(単位: °C)

調査時期	第1四半期
発電所停止中	9.3~14.3
発電所稼働中	8.7~12.2

注1) 東北電力(株)実施分における全体の水温は、水深20m層までを集計している。

注2) 発電所停止中の水温範囲は、平成16年度、平成20年度、平成23年度~令和6年度のものである。

注3) 発電所稼働中の水温範囲は、平成17年度~平成19年度、平成21年度~平成22年度のものである。



図一3.3 水温の経年変化 (0.5m層)

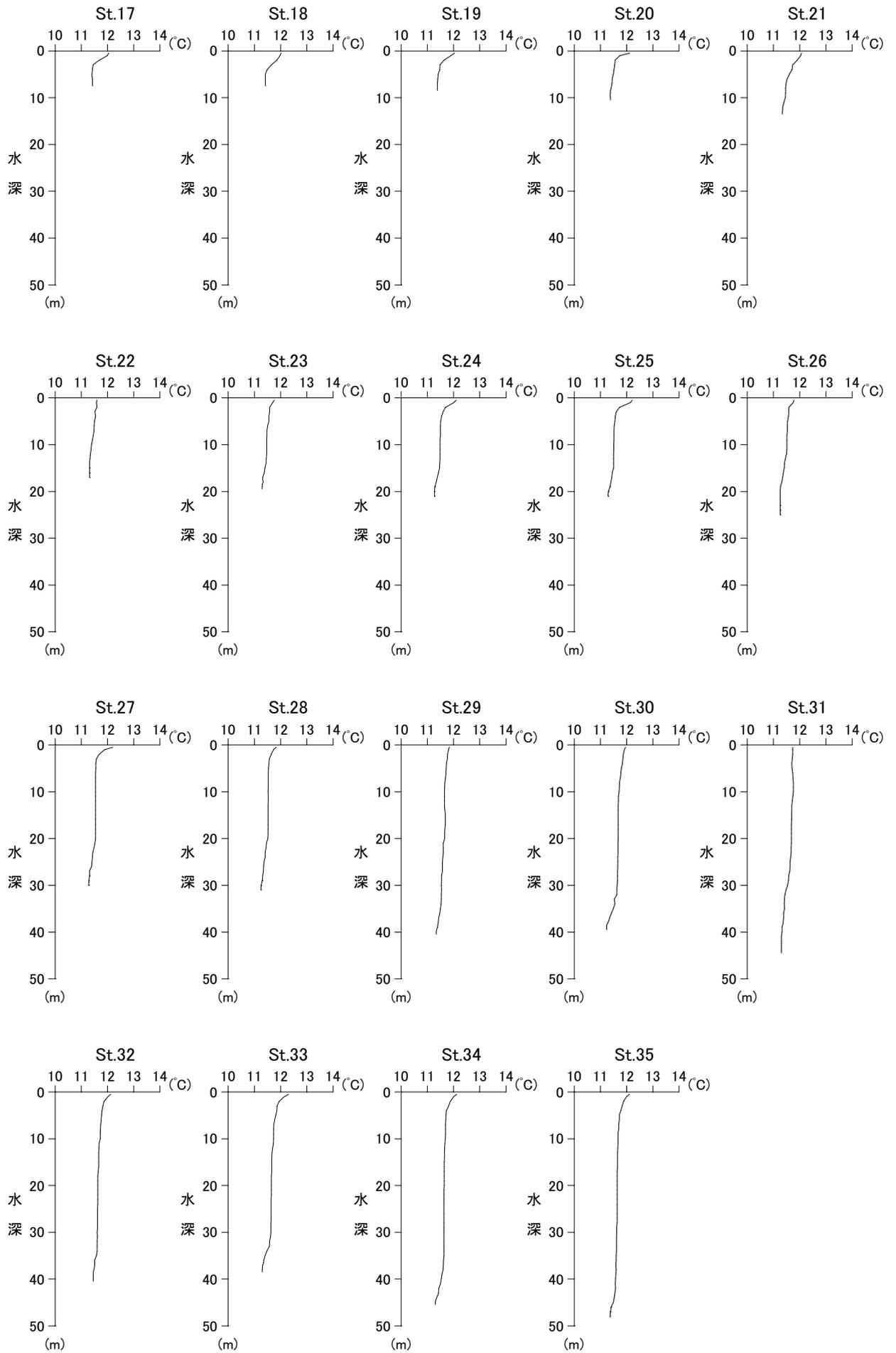
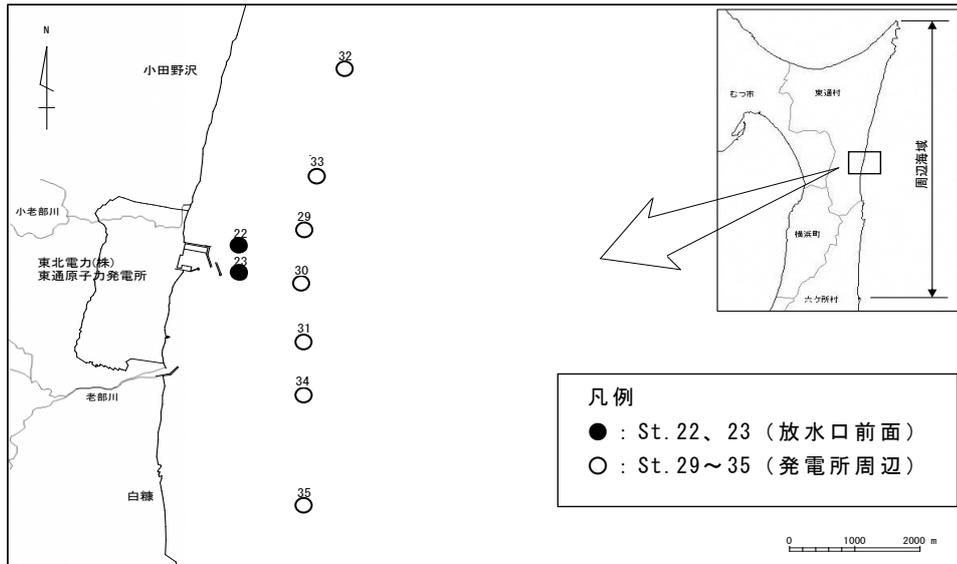


图-3.4 水温铅直分布图



図－3.5 水温を比較した調査点の位置関係

表－3.4 放水口前面と発電所周辺の水温較差（0.5m層）

（単位：℃）

比較調査点	St. 22 との 水温較差	St. 23 との 水温較差
St. 29	-0.2	0.0
St. 30	-0.4	-0.2
St. 31	-0.1	0.1
St. 32	-0.5	-0.3
St. 33	-0.7	-0.5
St. 34	-0.5	-0.3
St. 35	-0.5	-0.3

表－3.5 過去同期の水温較差範囲（0.5m層）

（単位：℃）

調査時期	第1四半期
発電所停止中	-1.0～0.7
発電所稼働中	-0.3～1.0

- 注 1) 発電所停止中の水温較差範囲は、平成 16 年度、平成 20 年度、平成 23 年度～令和 6 年度の  
ものである。
- 注 2) 発電所稼働中の水温較差範囲は、平成 17 年度～平成 19 年度、平成 21 年度～平成 22 年度の  
ものである。

b. 塩分

0.5m層における塩分水平分布を図-3.6に示す。0.5m層における塩分は33.4~33.8の範囲であった。

また、塩分鉛直分布を図-3.7に示す。全体の塩分は33.4~33.8の範囲であった。

塩分は、海域全体で一様であった。

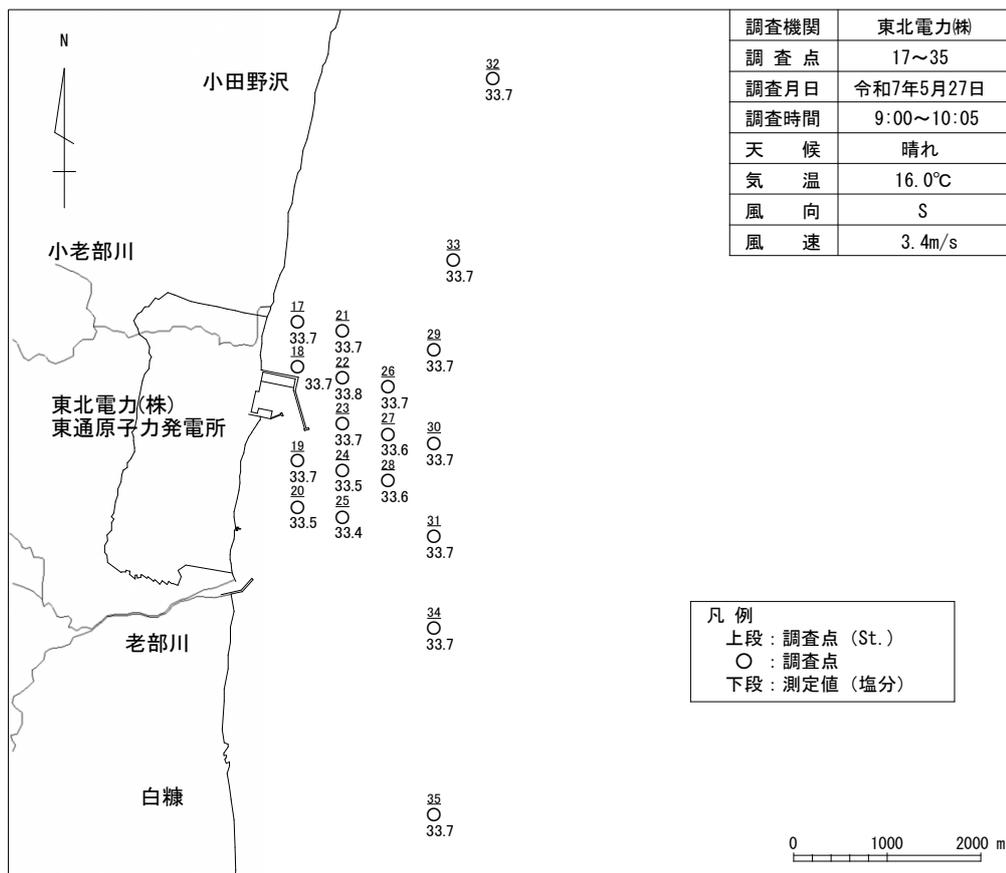


図-3.6 塩分水平分布図 (0.5m層)

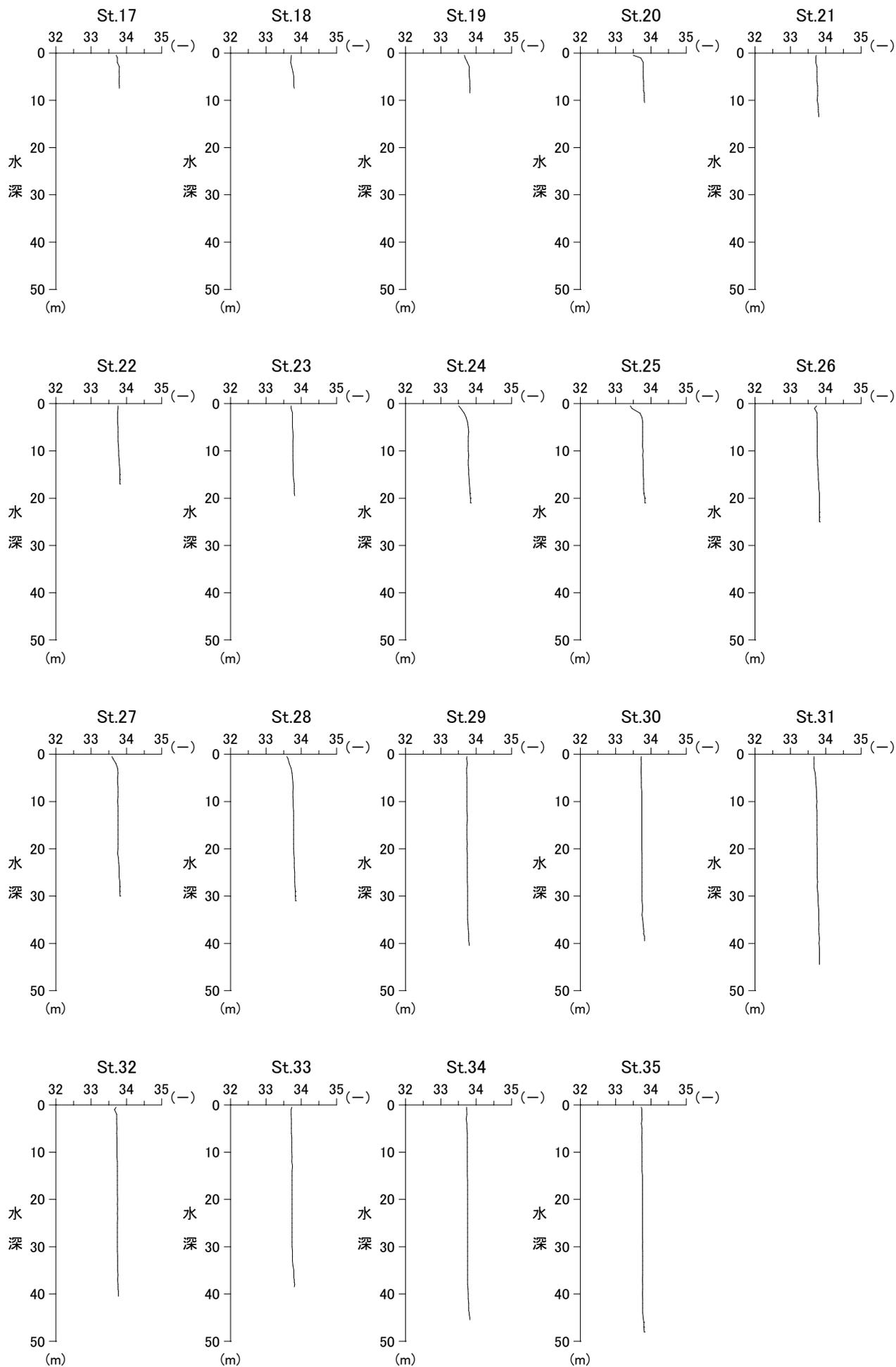


图-3.7 塩分鉛直分布図

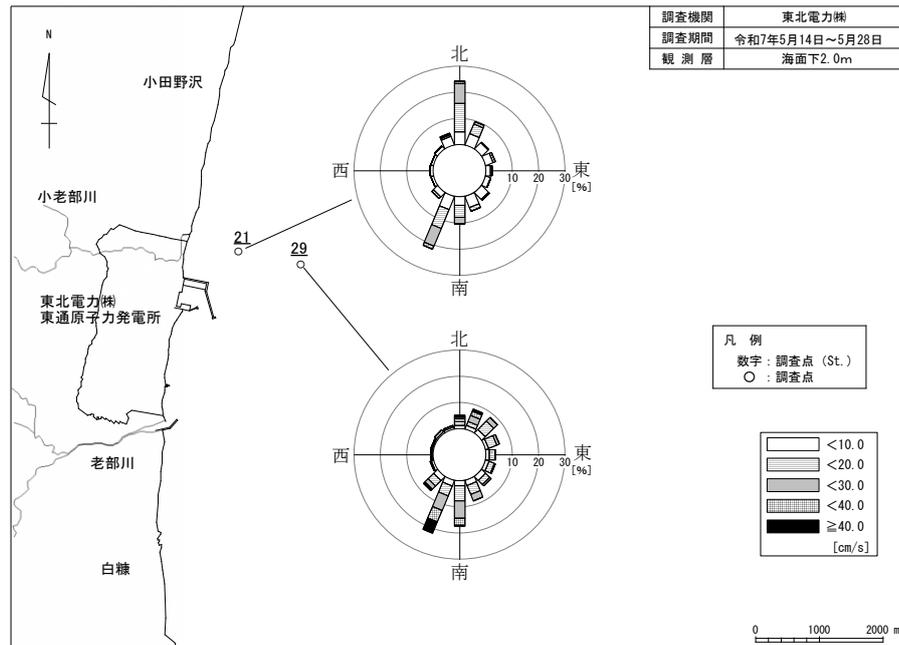
### (3) 流況

調査位置：St. 21、29（2調査点、図-1.3参照）

発電所稼働状況：停止中

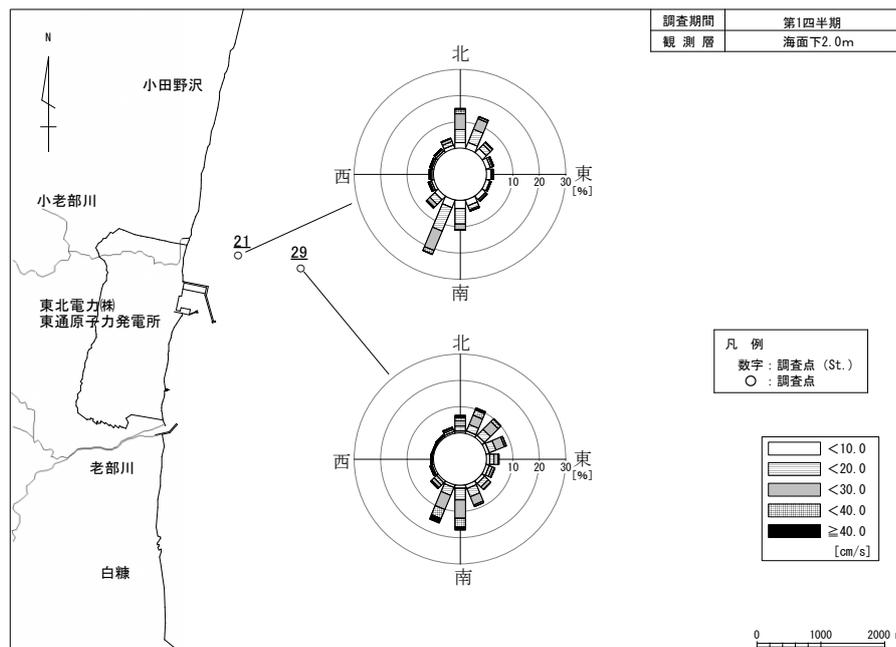
今期の流向別流速出現頻度を図-3.8に、過去同期の流向別流速出現頻度を図-3.9に示す。流向は、汀線にほぼ平行な流れで北及び南～南南西が卓越しており、流速は30cm/sまでが大部分を占めている。

過去同期と同様の傾向であった。



注1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

図-3.8 流向別流速出現頻度



注1) 流向は流れて行く方向を示し、風向とは逆を示す。

注2) 過去同期の流向別流速出現頻度は、平成16年度～令和6年度のものである。

図-3.9 過去同期の流向別流速出現頻度

(4) 水質

調査位置：St. 18、23、27、30、32～35（8調査点、図－1.4参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.6に、過去同期の調査結果範囲を表－3.7に示す。

表－3.6 水質調査結果

調査年月日：令和7年5月27日  
調査機関：東北電力（株）

調査項目	単位	最大値	最小値	平均値
水素イオン濃度（pH）	—	8.0	8.0	8.0
化学的酸素要求量 （COD）	酸性法	mg/L	2.4	1.3
	アルカリ性法	mg/L	<u>1.1</u>	0.5
溶存酸素量（DO）	mg/L	10.2	8.7	9.4
塩分	—	34.0	33.7	33.9
透明度	m	15.0	11.5	13.3
浮遊物質（SS）	mg/L	1	<1	1
水温	℃	12.3	11.3	11.8
全窒素（T-N）	mg/L	0.16	0.09	0.12
全リン（T-P）	mg/L	0.017	0.012	0.014

注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。

注2) 透明度以外の「平均値」の算出にあたって、定量下限未満の値は定量下限値として計算した。

注3) 透明度の最小値、平均値の算出には、着底した値を含めていない。

注4) 下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

表－3.7 過去同期の水質調査結果範囲

調査項目	単位	第1四半期	
水素イオン濃度（pH）	—	7.9～8.2	
化学的酸素要求量 （COD）	酸性法	mg/L	0.2～2.8
	アルカリ性法	mg/L	<0.1～0.7
溶存酸素量（DO）	mg/L	8.5～10.9	
塩分	—	33.2～34.1	
透明度	m	6.0～19.0	
浮遊物質（SS）	mg/L	<1～4	
水温	℃	8.7～14.3	
全窒素（T-N）	mg/L	0.07～0.45	
全リン（T-P）	mg/L	0.008～0.035	

注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。

注2) 透明度の最小値には、着底した値を含めていない。

注3) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度の  
ものである。

- a. 水素イオン濃度 (pH)  
8.0であり、過去同期の範囲内であった。
- b. 化学的酸素要求量 (COD)  
酸性法では 1.0mg/L~2.4mg/L であり、過去同期の範囲内であった。アルカリ性法では 0.4mg/L~1.1mg/L の範囲であり、過去同期の範囲を上回っていた。
- c. 溶存酸素量 (DO)  
8.7mg/L~10.2mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内であった。
- d. 塩 分  
33.7~34.0 の範囲であり、過去同期の範囲内であった。
- e. 透明度  
11.5m~15.0mの範囲であり、過去同期の範囲内であった。
- f. 浮遊物質 (SS)  
定量下限値未満~1mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内であった。
- g. 水 温  
11.3°C~12.3°Cの範囲であり、過去同期の範囲内であった。
- h. 全窒素 (T-N)  
0.09mg/L~0.16mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内であった。
- i. 全リン (T-P)  
0.012mg/L~0.017mg/L の範囲であり、過去同期の範囲内であった。

(5) 底質

調査位置：St. a～c（3調査点、図－1.5参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.8に、過去同期の調査結果範囲を表－3.9に示す。

表－3.8 底質調査結果

調査年月日：令和7年5月23日  
調査機関：東北電力（株）

調査項目		単位	St. a	St. b	St. c
化学的酸素要求量（COD）		mg/g 乾泥	0.6	0.5	0.3
強熱減量（IL）		%	2.3	2.5	1.3
全硫化物（T-S）		mg/g 乾泥	<0.01	<0.01	<0.01
粒度組成	礫（2.000 mm 以上）	%	18.1	1.9	0.0
	粗砂（0.425～2.000 mm 未満）		73.8	10.9	0.1
	細砂（0.075～0.425 mm 未満）		4.9	<u>83.3</u>	97.2
	シルト（0.005～0.075 mm 未満）		0.8	1.3	0.1
	粘土・コロイド（0.005 mm 未満）		2.4	2.6	2.6

- 注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。  
 注2) 強熱減量と粒度組成は、重量百分率で示した。  
 注3) 粒度組成については、細砂の割合を確認している。  
 注4) 下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

表－3.9 過去同期の底質調査結果範囲

調査項目	単位	第1四半期			
		St. a	St. b	St. c	
化学的酸素要求量（COD）	mg/g 乾泥	0.2～1.9	0.3～0.8	0.1～0.5	
強熱減量（IL）	%	1.5～6.9	1.5～5.0	1.0～3.0	
全硫化物（T-S）	mg/g 乾泥	<0.01	<0.01～0.01	<0.01	
粒度組成	%	礫（2.000 mm 以上）	0.1～43.0	0.0～0.8	0.0～0.1
		粗砂（0.425～2.000 mm 未満）	2.0～93.9	0.2～11.3	0.0～0.4
		細砂（0.075～0.425 mm 未満）	0.2～97.3	84.7～98.6	92.4～99.4
		シルト（0.005～0.075 mm 未満）	0.0～1.9	0.0～1.5	0.1～3.7
		粘土・コロイド（0.005 mm 未満）	0.5～2.7	0.5～3.6	0.2～3.8

- 注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。  
 注2) 強熱減量と粒度組成は、重量百分率で示した。  
 注3) 粒度組成については、細砂の割合を確認している。  
 注4) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

**a. 化学的酸素要求量 (COD)**

St. a において 0.6mg/g 乾泥、St. b において 0.5mg/g 乾泥、St. c において 0.3mg/g 乾泥を示し、過去同期の範囲内であった。

**b. 強熱減量 (IL)**

St. a において 2.3%、St. b において 2.5%、St. c において 1.3%を示し、過去同期の範囲内であった。

**c. 全硫化物 (T-S)**

全調査点において定量下限値未満であり、過去同期の範囲内であった。

**d. 粒度組成**

細砂が St. a において 4.9%、St. b において 83.3%、St. c において 97.2%の分布であり、St. a 及び St. c は過去同期の範囲内であった。St. b は過去同期の範囲を下回っていた。

(6) 卵・稚仔

調査位置：St. 23、30、32～35（6調査点、図－1.6参照）

発電所稼働状況：停止中

a. 卵

調査結果を表－3.10に、過去同期における調査結果範囲を表－3.11に、主な出現種の状況を表－3.12に示す。

今期の出現種類数は8種類、出現した平均個数は377個/1,000m<sup>3</sup>、主な出現種は単脂球形不明卵1等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.10 卵調査結果

調査年月日：令和7年5月27日  
調査機関：東北電力（株）

出現種類数	8	
平均個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	377	
主な出現種	単脂球形不明卵 1	62.6%
	無脂球形不明卵 1	32.3%

注1) 主な出現種は、総個数の5%以上出現かつ上位5種のものとした。

表－3.11 過去同期の卵調査結果範囲

調査時期	第1四半期
出現種類数	0～13
平均個数 (個/1,000m <sup>3</sup> )	0～982

注1) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

表－3.12 卵調査における主な出現種の状況

調査時期	第1四半期						
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7
コノシロ		1 / 2					
カタクチイワシ		2 / 4	○	○	○	◎	○
キュウリエソ		3 / 13		○	○		○
スケトウダラ		1 / 1					
ネズツポ科	◎	2 / 3					
メイタガレイ属		1 / 9		○	○	○	○
カレイ科	◎	4 / 6					

- 注1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。  
 注2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。  
 注3) 平成17年度～令和2年度の16年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）/（調査で出現した回数）で示す。  
 注4) 不明卵は、種が特定できないため除外した。

## b. 稚仔

調査結果を表－3.13 に、過去同期における調査結果範囲を表－3.14 に、主な出現種の状況を表－3.15 に示す。

今期の出現種類数は14種類、出現した平均個体数は142個体/1,000m<sup>3</sup>、主な出現種はメバル属等であった。出現種類数及び平均個体数は過去同期の範囲を上回っていたが、過去と同様の出現傾向にあり、変化はみられなかった。

表－3.13 稚仔調査結果

調査年月日：令和7年5月27日  
調査機関：東北電力（株）

出現種類数	<u>14</u>	
平均個体数 (個体/1,000m <sup>3</sup> )	<u>142</u>	
主な出現種	メバル属	65.2%
	キツネメバル	14.9%
	ウスメバル	6.4%

注1) 主な出現種は、総個体数の5%以上出現かつ上位5種のものとした。

注2) 出現種類数及び平均個体数における下線部は、過去同期の範囲外の値であることを示す。

表－3.14 過去同期の稚仔調査結果範囲

調査時期	第1四半期
出現種類数	0～13
平均個体数 (個体/1,000m <sup>3</sup> )	0～50

注1) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

表－3.15 稚仔調査における主な出現種の状況

調査時期	第1四半期						
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7
カタクチイワシ		1 / 3	○			◎	○
スケトウダラ	◎	4 / 7					○
イカナゴ	◎	2 / 7	○	○			
ハゼ科		2 / 4		○	◎	○	○
ヘビギンポ科		1 / 1					
イソギンポ科		1 / 1					
ムスジガジ	○	1 / 1					
タウエガジ科		4 / 6		○		○	○
ギンポ		1 / 1					
ウスメバル	◎	2 / 5	◎	◎	◎	○	◎
キツネメバル		3 / 7	○	◎	◎	◎	◎
ムラソイ		2 / 10	◎	○	◎	◎	○
メバル属	◎	10 / 10	◎	◎	◎	◎	◎
カジカ科		1 / 2		○			
クサウオ科		2 / 2		◎			
マコガレイ		2 / 3	○				○
カレイ科		1 / 3		○			

- 注1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。  
 注2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。  
 注3) 平成17年度～令和2年度の16年間は、それぞれの出現状況を(主な出現種に計上された回数) / (調査で出現した回数) で示す。

## (7) プランクトン

調査位置：St. 23、30、32～35（6 調査点、図－1.6 参照）

発電所稼働状況：停止中

### a. 動物プランクトン

調査結果を表－3.16 に、過去同期における調査結果範囲を表－3.17 に、主な出現種の状況を表－3.18 に示す。

今期の出現種類数は43種類、出現した平均個体数は5,120 個体/m<sup>3</sup>、主な出現種は nauplius of COPEPODA 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.16 動物プランクトン調査結果

調査年月日：令和7年5月27日

調査機関：東北電力（株）

出現種類数	43		
平均個体数 (個体/m <sup>3</sup> )	5,120		
主な出現種	節足動物	nauplius of COPEPODA	48.8%
		copepodite of <i>Oithona</i>	13.6%
		copepodite of <i>Pseudocalanus</i>	10.5%
		copepodite of <i>Paracalanus</i>	9.7%

注1) 主な出現種は、総個体数の5%以上出現かつ上位5種のものとした。

表－3.17 過去同期の動物プランクトン調査結果範囲

調査時期	第1四半期
出現種類数	28～52
平均個体数 (個体/m <sup>3</sup> )	2,216～40,681

注1) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

表－3.18 動物プランクトン調査における主な出現種の状況

調査時期 年度	第1四半期						
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7
<i>Parafavella denticulata</i>	○	1 / 5	○	○	○	○	○
copepodite of <i>Paracalanus</i>	◎	3 / 16	○	◎	◎	◎	◎
copepodite of <i>Clausocalanus</i>	○	2 / 16	◎	○	○	○	○
copepodite of <i>Pseudocalanus</i>	◎	15 / 16	◎	◎	○	○	◎
<i>Oithona similis</i>	○	4 / 16	○	○	○	○	○
copepodite of <i>Oithona</i>	◎	15 / 16	◎	◎	◎	○	◎
nauplius of COPEPODA	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
<i>Fritillaria borealis</i>		1 / 2		○			
<i>Fritillaria</i> sp.	○	1 / 13	○	○	○	○	○
<i>Oikopleura</i> sp.	○	2 / 13	○	◎	○	○	○

注1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注3) 平成17年度～令和2年度の16年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）/（調査で出現した回数）で示す。

b. 植物プランクトン

調査結果を表-3.19 に、過去同期における調査結果範囲を表-3.20 に、主な出現種の状況を表-3.21 に示す。

今期の出現種類数は54種類、出現した平均細胞数は337,450細胞/L、主な出現種は *Leptocylindrus danicus* 等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表-3.19 植物プランクトン調査結果

調査年月日：令和7年5月27日  
調査機関：東北電力（株）

出現種類数	54		
平均細胞数 (細胞/L)	337,450		
主な出現種	黄色植物	<i>Leptocylindrus danicus</i> <i>Cerataulina pelagica</i>	53.1% 6.6%
	クリプト植物	CRYPTOPHYCEAE	7.5%

注1) 主な出現種は、総細胞数の5%以上出現かつ上位5種のものとした。

表－3.20 過去同期の植物プランクトン調査結果範囲

調査時期	第1四半期
出現種類数	25～76
平均細胞数 (細胞/L)	2,480～1,439,620

注1) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

表－3.21 植物プランクトン調査における主な出現種の状況

調査時期 年度	第1四半期						
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7
CRYPTOPHYCEAE	◎	11 / 16	◎	○	○	○	◎
<i>Prorocentrum minimum</i>		1 / 3					
GYMNODINIALES	○	1 / 16	○	○	○	○	○
PERIDINIALES	○	4 / 15	○	○	○	○	○
<i>Leptocylindrus danicus</i>	◎	2 / 8	○	○	◎	◎	◎
<i>Leptocylindrus minimus</i>	○	0 / 3	○	○	◎	○	○
<i>Thalassiosira</i> sp.		3 / 15	○	○	○	○	○
THALASSIOSIRACEAE	○	2 / 11	○	○	○		○
<i>Rhizosolenia fragilissima</i>	◎	9 / 15	◎	◎	◎	○	○
<i>Rhizosolenia phuketensis</i>		1 / 12	○	○	○	○	○
<i>Bacteriastrum varians</i>		2 / 13	◎	○	○		○
<i>Chaetoceros compressum</i>	◎	0 / 12	○	○	○	○	○
<i>Chaetoceros decipiens</i>		1 / 11	○	○	○	○	○
<i>Chaetoceros sociale</i>	○	2 / 10	◎	◎	○	○	○
<i>Cerataulina pelagica</i>	○	5 / 12	○	○	○	○	◎
<i>Asterionella kariana</i>		1 / 4					
<i>Thalassionema nitzschioides</i>	○	1 / 12	○	○	○	○	○
<i>Neodelphineis pelagica</i>		1 / 3				○	○
<i>Nitzschia</i> spp.		3 / 13	◎	○	◎	◎	○
PRASINOPHYCEAE	◎	4 / 16	○	○	○	○	○

注1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注3) 平成17年度～令和2年度の16年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数）/（調査で出現した回数）で示す。

注4) 微小鞭毛藻類は、種が特定できないため除外した。

(8) 海藻草類

調査位置：LineA～D（4 調査測線、図－1.7 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.22 に、過去同期の調査結果範囲を表－3.23 に、主な出現種の状況を表－3.24 に示す。

今期の出現種類数は 62 種類で、主な出現種はサビ亜科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.22 海藻草類調査結果

調査年月日：令和 7 年 5 月 14 日～22 日

調査機関：東北電力（株）

出現種類数	62	
主な出現種	紅藻植物	サビ亜科 ユカリ
	褐藻植物	マコンブ アカモク ケウルシグサ

注 1) 主な出現種は、いずれかの調査測線で被度が 25%以上のものとした。

表－3.23 過去同期の海藻草類調査結果範囲

調査時期	第1四半期
出現種類数	58～74

注1) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

表－3.24 海藻草類調査における主な出現種の状況

調査時期 年度	第1四半期						
	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6	R7
スガモ	○	11 / 16	◎	○	○	○	○
アオサ属	○	2 / 16	○	◎	○	○	○
フクリンアミジ	○	0 / 15	◎	○	◎	○	○
ウルシグサ	○	1 / 16	○	○	○	○	○
タバコグサ	○	3 / 15	○		○	○	○
ケウルシグサ	○	14 / 16	◎	◎	◎	○	◎
ワカメ	◎	10 / 16	◎	◎	◎	◎	○
スジメ	◎	7 / 16	○	○	○	○	○
マコンブ	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
ウガノモク	◎	3 / 16	○	○	○	◎	○
フシスジモク	○	1 / 16	○	○	○	○	○
アカモク	○	6 / 16	○	○	○	○	◎
ダルス	○	1 / 16	○	○	○	○	○
ヤハズシコロ	○	3 / 16	○	○	○	○	○
サビ亜科	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
ヨレクサ	○	1 / 13	○	○	○	○	○
オバクサ	○	1 / 16	○	○	○	○	○
カギノリ	○	1 / 16	○	○	◎	◎	○
アカバギンナンソウ		8 / 12	○	○	○	○	○
クロトサカモドキ	○	3 / 12	○				
ハリガネ	◎	8 / 16	○	○	○	○	○
ユカリ	○	0 / 16	○	○	○	◎	◎
サエダ	○	3 / 16	○	○	○		
イギス科	◎	1 / 16	○	○	○	○	○
ハイウスバノリ属	○	9 / 16	○	○	○	○	○
ハブタエノリ	○	3 / 16	○	○	○	○	○
スズシロノリ	○	1 / 16	○	○	○	○	○

注1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注3) 平成17年度～令和2年度の16年間は、それぞれの出現状況を（主な出現種に計上された回数） / （調査で出現した回数）で示す。

(9) 底生生物（メガロベントス）

調査位置：LineA～D（4 調査測線、図－1.7 参照）

発電所稼働状況：停止中

調査結果を表－3.25 に、過去同期の調査結果範囲を表－3.26 に、主な出現種の状況を表－3.27 に示す。

今期の出現種類数は 9 種類、出現した平均個体数は 15 個体/m<sup>2</sup>、主な出現種はキンコ科等であり、過去同期と同様の傾向であった。

表－3.25 底生生物（メガロベントス）調査結果

調査年月日：令和 7 年 5 月 14 日～22 日

調査機関：東北電力（株）

出現種類数	9		
平均個体数 (個体/m <sup>2</sup> )	15		
主な出現種	棘皮動物	キンコ科	67.6%
		キタムラサキウニ	22.5%

注 1) 主な出現種は、総個体数の 5% 以上出現かつ上位 5 種のものとした。

表－3.26 過去同期の底生生物（メガロベントス）調査結果範囲

調査時期	第1四半期
出現種類数	5～15
平均個体数 (個体/m <sup>2</sup> )	5～48

注1) 過去同期の調査結果範囲は、平成16年度～令和6年度のものである。

表－3.27 底生生物（メガロベントス）調査における主な出現種の状況

調査時期	第1四半期						
	年度	運転開始前 H16	H17-R2	R3	R4	R5	R6
イトマキヒトデ	○	0 / 5	○	○	◎	○	○
キタムラサキウニ	○	13 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
キンコ科	◎	16 / 16	◎	◎	◎	◎	◎
マボヤ	○	3 / 13	○	○	○	○	○
海鞘亜綱(単体ホヤ類)	○	1 / 10	○	○			

注1) 年度欄の「運転開始前」は温排水放水前の調査であることを示す。

注2) 表中の◎は主な出現種に計上されたことを示し、○は調査で出現したことを示す。

注3) 平成17年度～令和2年度の16年間は、それぞれの出現状況を  
(主な出現種に計上された回数) / (調査で出現した回数) で示す。

# 資 料 編

## 1. 青森県実施分

(1) 調査方法

(2) 調査データ

資料－1 水温・塩分

## 2. 東北電力(株)実施分

(1) 調査方法

(2) 分析方法

(3) 調査データ

資料－1 取放水温度

資料－2 水温・塩分

資料－3 流況

資料－4 水質

資料－5 底質

資料－6 卵・稚仔

資料－7 プランクトン

資料－8 海藻草類

資料－9 底生生物（メガロベントス）

(4) 運転状況・調査スケジュール

## 1. 青森県実施分

### (1) 調査方法

調査項目		調査目的	調査方法	調査頻度
海洋環境	水温・塩分	温排水の影響による水温上昇域を確認する。	調査点に停船し、メモリー式の「水温・塩分計」を所定の深度まで沈め、水温と塩分を測定する。表層は採水し棒状温度計で測定する。また、採水した表層水は持ち帰り、塩分検定を行う。表層以深の水温・塩分の測定方法は、海洋観測指針（1999年）4.3.1による。塩分は実用塩分で表し、その単位は無名数とする。	年4回

\* 実用塩分：実用塩分は、1気圧、15℃における塩化カリウム標準溶液（1kg中、32.4356gの塩化カリウムを含んだ水溶液）との電気伝導度比によって定義され、無次元の値であるため数値だけで表示する。

## (2) 調査データ

## 資料-1 水温・塩分

調査年月日 : 令和7年6月13日

調査時間 : 9:50~10:40

調査機関 : 青森県

調査点	St. 2	St. 5	St. 6	St. 7	St. 8
月日	6月13日	6月13日	6月13日	6月13日	6月13日
時刻	10:15	9:50	10:07	10:30	10:40
北緯	41° 11.0′	41° 12.0′	41° 11.0′	41° 10.0′	41° 09.0′
東経	141° 24.5′	141° 25.5′	141° 25.5′	141° 25.5′	141° 25.5′
天候	bc	bc	bc	bc	bc
気温 (°C)	15.5	18.5	16.0	15.8	15.8
波浪	1	1	1	1	1
うねり	1	1	1	1	1
風向	SE	SE	SE	SE	SE
風力	1	1	1	1	1
水深 (m)	25	46	54	59	62
透明度 (m)	11	11	12	12	12
水温 (°C)					
表層	13.0	13.0	13.0	13.1	12.9
10m	12.2	12.1	12.1	12.2	12.4
20m	12.0	11.9	12.1	12.2	12.1
30m		11.9	11.9	12.1	12.1
50m			11.9	11.9	11.9
塩分					
表層	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8
10m	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8
20m	33.9	33.8	33.8	33.8	33.8
30m		33.9	33.9	33.9	33.9
50m			33.9	33.9	33.9

注1) 塩分は実用塩分で示しているため表示単位を示していない。

## 2. 東北電力(株)実施分

### (1) 調査方法

調査項目		調査目的	調査方法	調査頻度
海洋環境	取放水温度	取放水温度差が7℃以下であることを確認する。	常設の電気式水温計により、連続測定する。	連続
	水温・塩分	温排水の影響による水温上昇域を確認する。	調査点に停船し、メモリー式の「水温・塩分計」を所定の深度まで沈め、水温と塩分を測定する。塩分は実用塩分で表し、その単位は無名数とする。	年4回
	流況 (流向・流速)	取放水に伴い、周辺海域の海水流動が変化していないことを確認する。	所定の位置に「流向・流速計」を係留し、15昼夜にわたって流向と流速を連続測定する。	年4回
	水質	取放水に伴い、水質が過年度と比較して変化していないことを確認する。	採水器を用いて所定の深度の採水を行い、試料を持ち帰り、各項目について分析する。また、透明度は「セッキ板」を用いて、水温は「水温・塩分計」を用いて測定する。	年4回
	底質	取放水に伴い、底質が過年度と比較して変化していないことを確認する。	採泥器を用いて海底の採泥を行い、試料を持ち帰り、各項目について分析する。	年4回
海生生物	卵・稚仔	温排水の影響により、発電所前面海域において出現種や出現量が過年度と比較して変化していないことを確認する。	稚魚ネットの水平曳きにより試料を採集し、ホルマリン固定する。試料は持ち帰り、出現種の査定を行う。	年4回
	プランクトン		動物プランクトンはプランクトンネットの鉛直曳きにより、植物プランクトンは採水器により試料を採集し、ホルマリン固定する。試料は持ち帰り、出現種の査定を行う。	年4回
	海藻草類、底生生物 (メガロベントス)		潜水士が海水中に潜って目視観察および写真撮影を行い、出現種類や分布状況について調査する。	年4回

\* 実用塩分：実用塩分は、1気圧、15℃における塩化カリウム標準溶液（1kg中、32.4356gの塩化カリウムを含んだ水溶液）との電気伝導度比によって定義され、無次元の値であるため数値だけで表示する。

\* 透明度：透明度は海洋表層の平均的な海水の濁りの指標であり、白昼に透明度板（セッキ板ともいう）という直径30cmの白色の平らな円盤を水平に海水中に降ろし、上から見てこれがちょうど見えなくなる限界の深さをm単位で表す。透明度の目視確認が海底までできた場合（着底した場合）は、その水深の値は透明度に含めない。

## (2) 分析方法

### 水質分析方法

分析項目		分析方法（出典）	表示単位
水素イオン濃度（pH）		環告 59 号 別表 2.2 （JIS K 0102-1 12）	—
化学的酸素 要 求 量 （COD）	酸性法	環告 59 号 別表 2.2 （JIS K 0102-1 17.2）	mg/L
	アルカリ性法	環告 59 号 別表 2.2 備考 1	mg/L
溶存酸素量（DO）		環告 59 号 別表 2.2 （JIS K 0102-1 21.2）	mg/L
塩 分		海洋観測指針（1999）5.3	—
透 明 度		海洋観測指針（1999）3.2	m
浮遊物質（SS）		環告 59 号 別表 2.1 付表 8	mg/L
水 温		JIS K 0102-1 6.3 （サーミスタ温度計）	°C
全窒素（T-N）		環告 59 号 別表 2.2 （JIS K 0102-2 17.5）	mg/L
全リン（T-P）		環告 59 号 別表 2.2 （JIS K 0102-2 18.4.6）	mg/L

### 底質分析方法

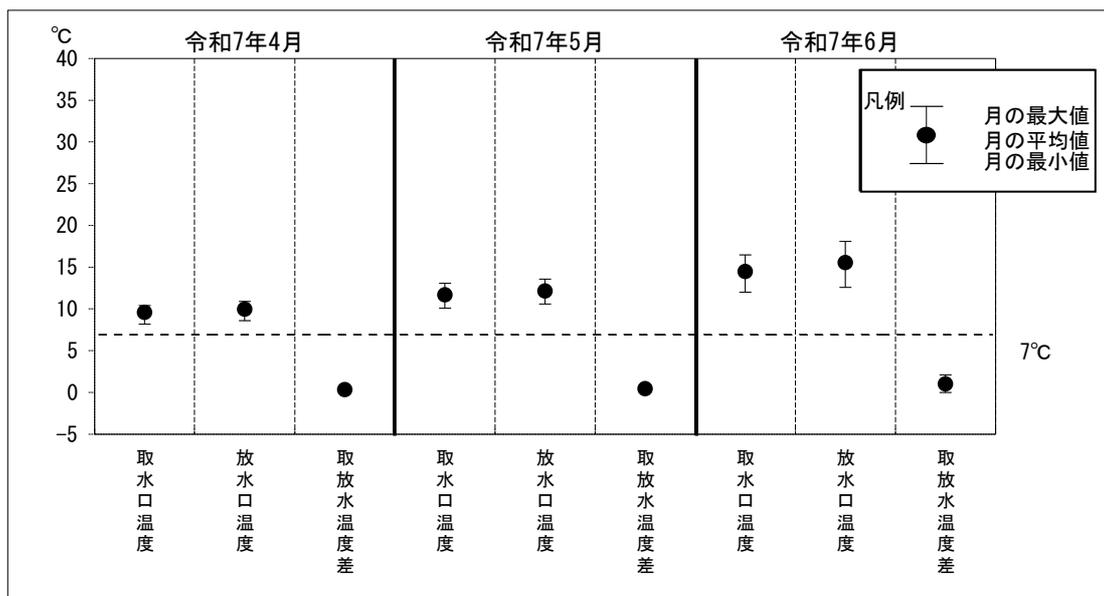
分析項目	分析方法（出典）	表示単位
化学的酸素要求量（COD）	底質調査方法 （平成 24 年環境省 II 4.7）	mg/g 乾泥
強熱減量（IL）	底質調査方法 （平成 24 年環境省 II 4.2）	%
全硫化物（T-S）	底質調査方法 （平成 24 年環境省 II 4.6）	mg/g 乾泥
粒度組成	JIS A 1204	%

(3) 調査データ

資料-1 取放水温度

(単位：℃)

年月 日	令和7年4月		令和7年5月		令和7年6月	
	取水口	放水口	取水口	放水口	取水口	放水口
1	8.4	8.8	10.6	10.9	12.1	12.6
2	8.2	8.6	10.7	11.1	12.3	12.6
3	8.2	8.6	10.6	11.1	12.0	12.8
4	8.6	9.0	10.1	10.6	12.2	12.7
5	8.8	9.1	10.3	10.6	12.7	13.1
6	9.1	9.4	10.3	10.8	12.9	13.3
7	9.4	9.7	10.3	10.7	13.3	13.8
8	9.6	10.0	10.5	10.9	13.7	14.4
9	9.8	10.1	11.1	11.5	13.8	15.1
10	9.7	10.1	11.6	12.0	14.3	15.3
11	9.7	10.0	11.7	12.0	14.5	15.4
12	9.9	10.3	11.5	11.9	14.8	15.4
13	10.3	10.6	11.7	12.1	14.7	15.7
14	9.5	9.9	11.8	12.4	14.1	15.5
15	9.2	9.6	11.7	12.2	14.1	15.4
16	9.3	9.6	12.0	12.6	14.3	15.2
17	9.3	9.7	12.3	12.9	15.0	15.7
18	9.7	10.1	12.3	12.7	14.5	16.1
19	10.0	10.3	12.1	12.6	14.4	16.1
20	10.2	10.5	12.3	12.8	14.7	16.1
21	10.4	10.8	12.2	12.7	15.2	16.3
22	10.4	10.9	12.0	12.4	15.9	16.8
23	10.0	10.6	12.2	12.7	15.9	17.2
24	9.9	10.3	12.6	13.0	16.3	17.5
25	9.7	10.1	12.5	12.9	16.4	17.8
26	9.8	10.1	12.3	12.7	16.5	17.7
27	10.1	10.4	12.4	12.9	16.4	17.6
28	10.4	10.7	12.8	13.3	16.0	17.9
29	10.0	10.3	13.1	13.6	16.2	18.1
30	10.2	10.5	12.6	13.4	15.7	17.8
31	-	-	12.2	13.0	-	-
平均値	9.6	10.0	11.7	12.2	14.5	15.6
最大値	10.4	10.9	13.1	13.6	16.5	18.1
最小値	8.2	8.6	10.1	10.6	12.0	12.6



資料-2 水温・塩分

調査年月日：令和7年5月27日

調査機関：東北電力株式会社

調査点 項目	St. 17	St. 18	St. 19	St. 20	St. 21	St. 22	St. 23	St. 24	St. 25	St. 26	St. 27	St. 28	St. 29	St. 30	St. 31	St. 32	St. 33	St. 34	St. 35
時刻	9:41	9:51	9:33	9:43	9:28	9:20	9:00	9:19	9:28	9:45	10:05	9:06	9:34	9:17	9:07	9:27	9:13	9:36	9:14
天候	晴れ																		
気温 (°C)			16.0																
風向			S																
風速 (m/s)			3.4																
水深 (m)	7.5	7.5	8.5	10.5	13.5	17.0	19.5	21.0	21.0	25.0	30.0	31.0	40.5	39.5	44.5	40.5	38.5	45.5	48.0
水温 (°C)																			
観測層 (m) 0.5	12.0	12.0	12.0	12.1	12.1	11.6	11.8	12.1	12.2	11.8	12.2	11.8	11.8	12.0	11.7	12.1	12.3	12.1	12.1
1	12.0	12.0	11.9	11.7	12.0	11.6	11.7	12.0	12.1	11.8	11.9	11.7	11.8	11.9	11.7	12.0	12.2	12.0	12.0
2	11.7	11.9	11.6	11.6	11.9	11.6	11.6	11.7	11.7	11.6	11.7	11.7	11.8	11.9	11.7	11.9	11.9	11.9	11.9
3	11.5	11.7	11.5	11.5	11.7	11.5	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.6	11.8	11.9	11.7	11.8	11.9	11.8	11.8
4	11.4	11.5	11.5	11.5	11.7	11.5	11.6	11.5	11.6	11.6	11.6	11.6	11.7	11.8	11.7	11.8	11.9	11.7	11.8
5	11.4	11.4	11.4	11.5	11.6	11.5	11.6	11.5	11.6	11.5	11.6	11.5	11.7	11.8	11.7	11.8	11.8	11.7	11.7
6	11.4	11.4	11.4	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.7	11.8	11.7	11.8	11.8	11.7	11.7
7	11.4	11.4	11.4	11.4	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.7	11.8	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7
8			11.4	11.4	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.7	11.7	11.8	11.7	11.7	11.7	11.7
9				11.4	11.5	11.4	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.7	11.7	11.8	11.7	11.7	11.7	11.7
10				11.4	11.5	11.4	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	11.7	11.7	11.8	11.7	11.7	11.7	11.7
15						11.3	11.4	11.5	11.5	11.4	11.5	11.5	11.7	11.7	11.7	11.7	11.7	11.6	11.7
20								11.3	11.3	11.3	11.5	11.5	11.7	11.7	11.7	11.6	11.7	11.6	11.6
海底上2m	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.3	11.3	11.3	11.4	11.3	11.3	11.3	11.4	11.3	11.3	11.5	11.4	11.4	11.4
塩分																			
観測層 (m) 0.5	33.7	33.7	33.7	33.5	33.7	33.8	33.7	33.5	33.4	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
1	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8	33.7	33.6	33.5	33.7	33.6	33.6	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
2	33.7	33.7	33.8	33.8	33.7	33.8	33.8	33.7	33.7	33.8	33.7	33.7	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
3	33.8	33.7	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8
4	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7
5	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8
6	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8	33.8
7	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8	33.7
8			33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8	33.8
9				33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.7	33.7	33.7	33.8	33.8
10				33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.8	33.7	33.7	33.8	33.8
15						33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.8	33.7	33.7	33.8	33.8
20								33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.7	33.7	33.8	33.8	33.7	33.8	33.8
海底上2m	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8	33.8

資料-3 流況

調査年月日：令和7年5月14日～5月28日

調査機関：東北電力株式会社

調査位置：St. 21

(cm/s)	区分	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	合計
静穏	頻度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05
～ 5.0	頻度	24	25	31	30	19	24	38	41	19	25	20	18	16	9	21	31	391
	(%)	1.11	1.16	1.44	1.39	0.88	1.11	1.76	1.90	0.88	1.16	0.93	0.83	0.74	0.42	0.97	1.44	18.10
5.0 ～ 10.0	頻度	83	75	40	33	17	15	37	54	50	88	25	2	6	12	7	44	588
	(%)	3.84	3.47	1.85	1.53	0.79	0.69	1.71	2.50	2.31	4.07	1.16	0.09	0.28	0.56	0.32	2.04	27.22
10.0 ～ 15.0	頻度	104	58	5	17	11	3	9	26	57	93	16	1	7	1	6	7	421
	(%)	4.81	2.69	0.23	0.79	0.51	0.14	0.42	1.20	2.64	4.31	0.74	0.05	0.32	0.05	0.28	0.32	19.49
15.0 ～ 20.0	頻度	131	29	0	2	2	1	2	7	42	76	4	0	0	0	0	7	303
	(%)	6.06	1.34	0.00	0.09	0.09	0.05	0.09	0.32	1.94	3.52	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.32	14.03
20.0 ～ 25.0	頻度	89	18	0	0	0	0	0	0	45	84	0	0	0	0	0	3	239
	(%)	4.12	0.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.08	3.89	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	11.06
25.0 ～ 30.0	頻度	75	2	0	0	0	0	0	0	9	73	0	0	0	0	0	4	163
	(%)	3.47	0.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.42	3.38	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.19	7.55
30.0 ～ 35.0	頻度	19	0	0	0	0	0	0	0	1	24	0	0	0	0	0	7	51
	(%)	0.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.05	1.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.32	2.36
35.0 ～ 40.0	頻度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
	(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
40.0 ～	頻度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	頻度	525	207	76	82	49	43	86	128	223	466	65	22	29	22	34	103	2160
	(%)	24.31	9.58	3.52	3.80	2.27	1.99	3.98	5.93	10.32	21.57	3.01	1.02	1.34	1.02	1.57	4.77	100.00

調査位置：St. 29

(cm/s)	区分	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	合計
静穏	頻度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
～ 5.0	頻度	8	8	13	7	5	9	18	16	4	13	14	6	9	4	8	3	145
	(%)	0.37	0.37	0.60	0.32	0.23	0.42	0.83	0.74	0.19	0.60	0.65	0.28	0.42	0.19	0.37	0.14	6.71
5.0 ～ 10.0	頻度	17	22	24	16	21	17	23	25	35	33	29	12	1	6	5	13	299
	(%)	0.79	1.02	1.11	0.74	0.97	0.79	1.06	1.16	1.62	1.53	1.34	0.56	0.05	0.28	0.23	0.60	13.84
10.0 ～ 15.0	頻度	19	17	48	53	27	29	34	32	46	35	29	4	2	7	12	11	405
	(%)	0.88	0.79	2.22	2.45	1.25	1.34	1.57	1.48	2.13	1.62	1.34	0.19	0.09	0.32	0.56	0.51	18.75
15.0 ～ 20.0	頻度	14	19	51	20	19	19	14	49	80	53	35	4	3	3	9	3	395
	(%)	0.65	0.88	2.36	0.93	0.88	0.88	0.65	2.27	3.70	2.45	1.62	0.19	0.14	0.14	0.42	0.14	18.29
20.0 ～ 25.0	頻度	19	27	34	8	5	7	14	29	76	92	25	2	5	3	0	0	346
	(%)	0.88	1.25	1.57	0.37	0.23	0.32	0.65	1.34	3.52	4.26	1.16	0.09	0.23	0.14	0.00	0.00	16.02
25.0 ～ 30.0	頻度	6	26	7	13	0	1	1	27	66	37	11	0	0	0	0	0	195
	(%)	0.28	1.20	0.32	0.60	0.00	0.05	0.05	1.25	3.06	1.71	0.51	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	9.03
30.0 ～ 35.0	頻度	8	24	0	0	0	0	0	0	34	43	4	0	0	0	0	0	113
	(%)	0.37	1.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.57	1.99	0.19	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.23
35.0 ～ 40.0	頻度	6	14	1	0	0	0	0	0	25	60	5	0	0	0	0	0	111
	(%)	0.28	0.65	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.16	2.78	0.23	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	5.14
40.0 ～	頻度	14	19	0	0	0	0	0	0	8	101	9	0	0	0	0	0	151
	(%)	0.65	0.88	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.37	4.68	0.42	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.99
合計	頻度	111	176	178	117	77	82	104	178	374	467	161	28	20	23	34	30	2160
	(%)	5.14	8.15	8.24	5.42	3.56	3.80	4.81	8.24	17.31	21.62	7.45	1.30	0.93	1.06	1.57	1.39	100.00

注1) 頻度の(%)は、小数第3位を四捨五入しているため、合計は一致しない場合がある。

資料-4 水質

調査年月日：令和7年5月27日  
 調査方法：バンドーン型採水器による採水  
 調査機関：東北電力株式会社

		調査点	St. 18	St. 23	St. 27	St. 30	St. 32	St. 33	St. 34	St. 35	最大値	最小値	平均値
調査項目		採水層											
水素イオン濃度 (pH) [-]		0.5m	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0			
		5.0m	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0			
		20.0m	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0			
		平均	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
化学的 酸素 要求量 (COD) [mg/L]	酸性法	0.5m	1.2	1.2	2.4	1.2	1.6	1.3	1.4	1.2			
		5.0m	1.1	1.2	1.1	1.5	1.4	1.4	1.4	1.2			
		20.0m	1.2	1.2	1.2	1.5	1.0	1.5	1.5	1.1			
		平均	1.2	1.2	1.6	1.4	1.3	1.4	1.4	1.2	2.4	1.0	1.3
	アルカリ性法	0.5m	0.4	0.4	1.1	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4			
		5.0m	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4			
		20.0m	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.4			
		平均	0.4	0.4	0.7	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	1.1	0.4	0.5
溶存酸素量 (DO) [mg/L]		0.5m	9.0	8.9	8.7	8.9	9.8	9.9	10.0	9.8			
		5.0m	8.9	9.0	8.9	9.3	9.9	9.6	10.0	9.9			
		20.0m	8.7	8.9	8.9	9.1	9.2	9.5	10.2	9.7			
		平均	8.9	8.9	8.8	9.1	9.6	9.7	10.1	9.8	10.2	8.7	9.4
塩分 [-]		0.5m	33.9	33.8	33.7	33.8	33.9	33.9	33.9	33.9			
		5.0m	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9			
		20.0m	33.9	34.0	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9			
		平均	33.9	33.9	33.8	33.9	33.9	33.9	33.9	33.9	34.0	33.7	33.9
透明度 [m]			>7.5	11.5	13.0	13.0	13.5	15.0	14.4	12.5			
											15.0	11.5	13.3
浮遊物質 量 (SS) [mg/L]		0.5m	<1	<1	1	<1	<1	1	<1	<1			
		5.0m	<1	<1	1	1	<1	1	1	1			
		20.0m	1	<1	<1	<1	1	<1	1	1			
		平均	1	<1	1	1	1	1	1	1	1	<1	1
水温 [°C]		0.5m	12.0	11.8	12.2	12.0	12.1	12.3	12.1	12.1			
		5.0m	11.4	11.6	11.6	11.8	11.8	11.8	11.7	11.7			
		20.0m	11.4	11.3	11.5	11.7	11.6	11.7	11.6	11.6			
		平均	11.6	11.6	11.8	11.8	11.8	11.9	11.8	11.8	12.3	11.3	11.8
全窒素 (T-N) [mg/L]		0.5m	0.16	0.12	0.12	0.14	0.15	0.11	0.10	0.09			
		5.0m	0.13	0.11	0.13	0.11	0.10	0.10	0.10	0.10			
		20.0m	0.12	0.13	0.12	0.12	0.10	0.10	0.12	0.10			
		平均	0.14	0.12	0.12	0.12	0.12	0.10	0.11	0.10	0.16	0.09	0.12
全リン (T-P) [mg/L]		0.5m	0.016	0.016	0.015	0.015	0.013	0.013	0.013	0.012			
		5.0m	0.017	0.015	0.015	0.014	0.013	0.012	0.013	0.013			
		20.0m	0.016	0.016	0.015	0.013	0.013	0.014	0.014	0.014			
		平均	0.016	0.016	0.015	0.014	0.013	0.013	0.013	0.013	0.017	0.012	0.014

注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。また、透明度の「>」は着底を示す。  
 注2) 透明度以外の「平均値」の算出にあたって、定量下限未満の値は定量下限値として計算し、  
 全ての値が定量下限値未満の場合は、平均値に不等号を付けて表示した。  
 注3) 透明度の最小値、平均値の算出には着底した値を含めていない。  
 注4) St. 18(水深 7.5m)、St. 23(水深 19.5m)は水深21.0m未満のため、海底上1.0m層で採水した。

資料-5 底質

調査年月日：令和7年5月23日

調査方法：スミス・マッキンタイヤ型採泥器による採泥

調査機関：東北電力株式会社

調査項目	調査点	St. a	St. b	St. c	最大値	最小値	平均値
化学的酸素要求量 (COD) [mg/g乾泥]		0.6	0.5	0.3	0.6	0.3	0.5
強熱減量 (1L) [%]		2.3	2.5	1.3	2.5	1.3	2.0
全硫化物 (T-S) [mg/g乾泥]		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
礫 (2.000mm以上)		18.1	1.9	0.0	18.1	0.0	6.7
粒度組成 粗砂 (0.425~2.000mm未満)		73.8	10.9	0.1	73.8	0.1	28.3
細砂 (0.075~0.425mm未満)		4.9	83.3	97.2	97.2	4.9	61.8
シルト (0.005~0.075mm未満)		0.8	1.3	0.1	1.3	0.1	0.7
粘土・コロイド (0.005mm未満)		2.4	2.6	2.6	2.6	2.4	2.5

注1) 結果欄中の「<」は定量下限未満の値を示す。

注2) 平均値の算出にあたって、定量下限未満の値は定量下限値として計算し、全ての値が定量下限値未満の場合は、平均値に不等号を付けて表示した。

注3) 強熱減量と粒度組成は、重量百分率で示した。

資料-6.1 卵

調査年月日： 令和7年5月27日  
 調査方法： 丸稚ネットによる水平曳き (600m)  
 調査機関： 東北電力株式会社

種名	St. 23		St. 30		St. 32		St. 33		St. 34		St. 35		平均個数				
	調査点		調査点		調査点		調査点		調査点		調査点		計				
	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	全層												
1 カタケチイワシ	5	2			2	2							9	4	13	1 (0.3)	1 (0.3)
2 キュウリエン	3	2	3	1	8	3	2	2	3	6	2	2	21	14	35	4 (0.7)	2 (1.0)
3 メイタガレイ属			3	4	10	3	5	10	4	5	2	5	24	27	51	4 (0.8)	5 (2.0)
4 单脂球形不明卵 1	158	56	271	142	324	274	364	169	463	137	368	106	1,948	884	2,832	325 (61.3)	147 (65.7)
5 单脂球形不明卵 2	16	7	15	7	2	9	3	5	12	3	7	7	48	38	86	8 (1.5)	6 (2.8)
6 無脂球形不明卵 1	468	157	448	44	64	40	52	55	51	27	32	22	1,115	345	1,460	186 (35.1)	58 (25.7)
7 無脂球形不明卵 2	5	3	4		2		2	5	3	3	2	9	11	24	35	2 (0.3)	4 (1.8)
8 無脂球形不明卵 3								2	3	2	5	5	3	9	12	1 (0.1)	2 (0.7)
合計	655	227	740	202	412	329	430	248	536	183	406	156	3,179	1,345	4,524	530 (100.0)	224 (100.0)
出現種類数	6	6	5	6	7	5	7	7	6	7	5	7	8	8	8	8	8

注1) 平均個数欄の ( ) 内数値は総数に対する組成率 (%) を示す。

注2) 平均個数は小数第1位を、組成率は小数第2位をそれぞれ四捨五入していることから、各種の計と合計値は一致しない場合がある。

資料-6.2 稚仔

調査年月日： 令和7年5月27日  
 調査方法： 丸稚ネットによる水平曳き（600m）  
 調査機関： 東北電力株式会社

個体数密度（個体/1,000m<sup>3</sup>）

種名	調査点		St. 23		St. 30		St. 32		St. 33		St. 34		St. 35		平均個体数								
	採集層	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	全層																	
1 マイワシ						2	27	13	2	2	13	2	8	36	31	67	6	(4.5)	5	(3.4)	6	(3.9)	
2 カタクチイワシ		2		1		3			3					3	6	9	1	(0.4)	1	(0.7)	1	(0.5)	
3 ムネエソ科	15	5												15	5	20	3	(1.9)	1	(0.6)	2	(1.2)	
4 スケトウダラ											2				11	11			2	(1.2)	1	(0.6)	
5 ハゼ科		2				34	10	2	2	1	3		5	37	22	59	6	(4.6)	4	(2.4)	5	(3.5)	
6 タウエガジ科						2	1							2	1	3	0	(0.2)	0	(0.1)	0	(0.2)	
7 ウスメバル	10					7	19	21	5	13	10		24	51	58	109	9	(6.3)	10	(6.4)	9	(6.4)	
8 キツネメバル	2		1	13	93	60	14	36	4	13			18	114	140	254	19	(14.2)	23	(15.6)	21	(14.9)	
9 ムラソイ			1	1	5	15	5		3	2			16	14	34	48	2	(1.7)	6	(3.8)	4	(2.8)	
10 メバル属	10	2	4	16	42	236	208	28	251	147			155	527	584	1,111	88	(65.5)	97	(64.9)	93	(65.2)	
11 カサゴ											2				2	2			0	(0.2)	0	(0.1)	
12 アイナメ属											2				2	2			0	(0.2)	0	(0.1)	
13 ホウボウ科								2		3	2			5	2	7	1	(0.6)	0	(0.2)	1	(0.4)	
14 マコガレイ		2													2	2			0	(0.2)	0	(0.1)	
合計	37	13	6	31	188	368	265	78	288	183	20	227	20	804	900	1,704	134	(100.0)	150	(100.0)	142	(100.0)	
出現種類数	4	5	3	4	8	7	7	7	7	9	2	6	2	10	14	14							

注1) 平均個体数欄の（ ）内数値は総数に対する組成率（%）を、個体数の0は0.5個体/1,000m<sup>3</sup>未満であることを示す。  
 注2) 平均個体数は小数第1位を、組成率は小数第2位をそれぞれ四捨五入していることから、各種の計と合計値は一致しない場合がある。

資料-7.1 動物プランクトン

調査年月日：令和7年5月27日  
 調査方法：北原式閉鎖定量ネットによる鉛直曳き  
 調査機関：東北電力株式会社

門	種名	調査点		St. 23		St. 30		St. 32		St. 33		St. 34		St. 35		計		平均個体数						
		0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	0~5m	5~20m	全層				
原生動物	GLOBIGERINIDAE																							
2	<i>Parafavella denticulata</i>					5		2				5		5			17	17	138	(2.5)	3	(0.1)	1	(0.0)
3	<i>Eutintinnus lusus-undae</i>					40		20				60		100			830	340	(1.2)	57	(1.2)	98	(1.9)	
4	<i>Ovalia</i> sp.																							
5	環形動物																							
6	環形動物																							
7	環形動物																							
8	環形動物																							
9	環形動物																							
10	環形動物																							
11	環形動物																							
12	環形動物																							
13	環形動物																							
14	環形動物																							
15	環形動物																							
16	環形動物																							
17	環形動物																							
18	環形動物																							
19	環形動物																							
20	環形動物																							
21	環形動物																							
22	環形動物																							
23	環形動物																							
24	環形動物																							
25	環形動物																							
26	環形動物																							
27	環形動物																							
28	環形動物																							
29	環形動物																							
30	環形動物																							
31	環形動物																							
32	環形動物																							
33	環形動物																							
34	環形動物																							
35	環形動物																							
36	環形動物																							
37	環形動物																							
38	環形動物																							
39	環形動物																							
40	環形動物																							
41	環形動物																							
42	環形動物																							
43	環形動物																							
合計		460	5,842	3,550	4,015	7,450	706	4,690	3,193	12,720	6,070	3,740	9,005	32,610	28,831	61,441	5,435	(100.0)	4,805	(100.0)	5,120	(100.0)		
出現種数		8	23	19	26	20	16	16	15	17	30	18	22	30	39	43								

注1) 平均個体数(個体/m<sup>3</sup>)の内数値は総数に対する相対率(%)を、個体数の0は0.5個体/m<sup>3</sup>未満であることを示す。  
 注2) 平均個体数は小数第1位を、相対率は小数第2位をそれぞれ四捨五入していることから、各種の計と合計値は一致しない場合がある。

資料-7.2 植物プランクトン(1/2)

調査年月日：令和7年5月27日  
 調査方法：ハンダーン型採水器による採水  
 調査機関：東北電力株式会社

細胞数密度(細胞/L)

門	種名	調査点		St. 23		St. 30		St. 33		St. 34		St. 35		計		平均細胞数		全層	5.0m	全層	(7.5)
		採集層		0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m												
		0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m														
1	クリプト植物	6,000	29,760	8,400	37,920	30,720	43,680	5,040	24,240	16,800	41,760	12,960	47,280	79,920	224,640	304,560	13,320	37,440	(10.3)	25,380	(7.5)
2	渦鞭毛植物	240	1,680	1,920	1,200	2,640	1,680	2,640	1,680	1,680	1,680	2,640	2,880	11,760	10,800	22,560	1,960	1,800	(0.5)	1,880	(0.6)
3	<i>Prorocentrum triestinum</i>				240							240		240	240	480	40	(0.0)	40	(0.0)	
4	<i>Dinophysis fortii</i>	60		60	60				60	180	120	120		60	240	360	40	(0.0)	60	(0.0)	50
5	<i>Gyrodinium sp.</i>			480	480	240	720	480	960	240	720	480	600	1,920	3,840	5,760	320	(0.1)	640	(0.2)	480
6	GYMNODINIALES	1,920	14,400	2,880	4,800	7,200	21,840	1,680	8,160	3,360	12,960	5,040	17,280	22,080	79,440	101,520	3,680	(1.2)	13,240	(3.6)	8,460
7	<i>Gonyaulax sp.</i>			240	240	240	240			240	240	240		720	240	960	120	(0.0)	40	(0.0)	80
8	<i>Protopeidinium sp.</i>		240	60	720	1,680	720	480	360	240	480	960	1,680	1,920	6,480	8,400	320	(0.1)	1,080	(0.3)	700
9	<i>Ceratium kofoidii</i>	120	60	60	540	960	1,440	360	900	240	480	480	240	2,220	3,660	5,880	370	(0.1)	610	(0.2)	490
10	<i>Oxytoxum sp.</i>			240	240			240						240	480	720	40	(0.0)	80	(0.0)	60
11	PERIDINIALES	2,400	6,720	1,200	3,360	7,440	7,200	480	8,400	2,880	12,480	4,080	17,040	18,480	55,200	73,680	3,080	(1.0)	9,200	(2.5)	6,140
12	HAPTOPHYCEAE	480		240	960	960	480	720		240	1,440	720	960	3,360	3,840	7,200	560	(0.2)	640	(0.2)	600
13	<i>Dictyocha fibula</i>	480	240		240	240			240		240			720	1,200	1,920	120	(0.0)	200	(0.1)	160
14	<i>Skeletonema costatum</i>				960	480							720	480	1,680	2,160	80	(0.0)	280	(0.1)	180
15	<i>Leptocylindrus danicus</i>	161,760	167,040	156,960	159,360	192,960	181,920	165,120	203,040	180,960	202,560	194,880	182,400	1,052,640	1,096,320	2,148,960	175,440	(56.4)	182,720	(50.2)	179,080
16	<i>Leptocylindrus minimus</i>	6,000	8,880	10,800	11,040	11,520	20,400	14,880	15,840	14,400	15,120	23,520	9,360	81,120	80,640	161,760	13,520	(4.3)	13,440	(3.7)	13,480
17	<i>Corethron hystrix</i>				60	60	60	60		120	120			120	240	360	20	(0.0)	40	(0.0)	30
18	<i>Lauderia annulata</i>	240	240	120	960	720	360	240	600	480	600	480	960	2,280	3,720	6,000	380	(0.1)	620	(0.2)	500
19	<i>Thalassiosira sp.</i>	1,920	1,920	1,200	1,200	1,680	2,400	720	1,680	1,200	480	1,200	1,680	7,920	9,360	17,280	1,320	(0.4)	1,560	(0.4)	1,440
20	THALASSIOSIRACEAE	1,200	2,400	1,200	1,440	1,440	1,200	480	960	1,920	1,920	960	960	7,200	8,880	16,080	1,200	(0.4)	1,480	(0.4)	1,340
21	<i>Coscinodiscus sp.</i>			60	60									120	60	180	20	(0.0)	10	(0.0)	15
22	<i>Rhizosolenia alata</i>			60	60	60	120	60	60	120	60	240	60	480	240	720	80	(0.0)	40	(0.0)	60
23	<i>Rhizosolenia delicatula</i>	2,400	3,120	4,320	2,880	5,320	960	3,600	1,920	3,840	4,080	4,080	4,080	23,760	16,800	40,560	3,960	(1.3)	2,800	(0.8)	3,380
24	<i>Rhizosolenia fragillissima</i>	17,520	11,280	12,000	8,880	13,920	17,280	13,200	13,680	15,600	7,680	22,080	12,240	94,320	71,040	165,360	15,720	(5.1)	11,840	(3.3)	13,780
25	<i>Rhizosolenia phuketensis</i>	3,120	4,560	6,720	8,160	3,840	5,280	2,400	3,360	5,520	4,560	5,040	1,440	26,640	27,360	54,000	4,440	(1.4)	4,560	(1.3)	4,500
26	<i>Rhizosolenia setigera</i>	120	60	180	180	300	120	60	120	60	120	60	120	600	720	1,320	100	(0.0)	120	(0.0)	110
27	<i>Bacteriasterium varians</i>		2,400	960	1,920	1,440	1,920	2,400	960	1,440	2,640	3,840	1,920	10,080	11,760	21,840	1,680	(0.5)	1,960	(0.5)	1,820
28	<i>Chaetoceros affine</i>	1,440	960		960	960		960	1,920	1,440	2,160	2,400	1,920	7,200	6,960	14,160	1,200	(0.4)	1,160	(0.3)	1,180
29	<i>Chaetoceros compressum</i>	1,440	960	960	960	6,480	6,240	6,000	6,720	2,880	4,800	6,720	2,880	24,480	22,560	47,040	4,080	(1.3)	3,760	(1.0)	3,920
30	<i>Chaetoceros constrictum</i>									1,440	960			1,440	960	2,400	240	(0.0)	160	(0.0)	200
31	<i>Chaetoceros debile</i>				1,920						960		1,440		4,320			(0.2)	360	(0.1)	
32	<i>Chaetoceros decipiens</i>	960	1,440	720	2,400	960	1,680	1,440	3,840	960	3,360	1,920	4,320	6,960	17,040	24,000	1,160	(0.4)	2,840	(0.8)	2,000
33	<i>Chaetoceros didymum v. protuberans</i>											1,440	960	1,440	960	2,400	240	(0.1)	160	(0.0)	200
34	<i>Chaetoceros radicans</i>	3,840		1,440	1,920	1,680				1,440	2,400	960	960	9,360	4,320	13,680	1,560	(0.5)	720	(0.2)	1,140
35	<i>Chaetoceros sociale</i>	5,520	8,640	3,360	17,760	27,840	13,200	20,640	18,240	16,320	25,920	18,480	16,320	92,160	100,080	192,240	15,360	(4.9)	16,680	(4.6)	16,020
36	<i>Chaetoceros sp.</i>				960	960						720	240	1,680	1,200	2,880	280	(0.1)	200	(0.1)	240
37	<i>Odontella longicirrus</i>	240				120	180						120	360	300	660	60	(0.0)	50	(0.0)	55
38	<i>Cerataulina pelagica</i>	23,520	17,520	20,400	23,520	27,840	27,360	26,640	32,160	16,080	16,320	20,400	17,280	134,880	134,160	269,040	22,480	(7.2)	22,360	(6.1)	22,420
39	<i>Hemiaulus hauckii</i>								480				480		960	960		(0.0)	160	(0.0)	80
40	<i>Eucampia zodiacus</i>	120	240			240			840		240	480		840	1,320	2,160	140	(0.0)	220	(0.1)	180

注1) 平均細胞数種の ( ) 内数値は総数に対する組成率 (%) を示す。  
 注2) 平均細胞数は小数第1位を、組成率は小数第2位をそれぞれ四捨五入している。

資料-7.2 植物プランクトン(2/2)

調査年月日：令和7年5月27日  
 調査方法：ハンダーン型採水器による採水  
 調査機関：東北電力株式会社

細胞数密度 (細胞/L)	門	種名	調査点		St. 23		St. 30		St. 32		St. 33		St. 34		St. 35		計		平均細胞数	
			採集層		0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m								
			0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m	0.5m	5.0m										
41	黄色植物	<i>Asterionella glacialis</i>									480	480	960		480	480	480	2,400	320	80
42		<i>Thalassionema nitzschioides</i>						960	960	480	480	480			480	480	1,920	3,360	240	320
43		<i>Neodolphtneis pelagica</i>	960	480	960	960	960	1,920	480	240	1,440	1,920	720		960	960	5,520	11,040	920	920
44		<i>Licnophora</i> sp.	480		720												1,440	1,440	240	
45		<i>Navicula membranacea</i>	1,440	480	1,200	2,400	1,680	960	960	240	960	720	1,680	1,920	2,880	480	9,840	16,800	1,640	1,160
46		<i>Navicula</i> sp.	960	720	720						240	240			720	720	2,400	4,080	400	280
47		<i>Pleurosigma</i> sp.			60						60	60			180	60	360	120	60	20
48		NAVICULACEAE	240												240	240	240	480	40	40
49		<i>Nitzschia pungens</i>		240	240	720		960	240			480	1,080	720	480	480	3,240	6,720	540	580
50		<i>Nitzschia</i> spp.	6,000	3,120	5,760	6,480	10,560	6,480	6,480	10,560	4,800	9,840	6,480	10,560	7,200	6,000	40,800	42,480	6,800	7,080
51	ミドリムシ植物	<i>Cylindrotheca closterium</i>	3,360	1,680	4,800	2,400	2,880	3,120	2,640	2,400	3,120	2,640	4,320	2,160	2,640	2,400	20,640	14,880	3,440	2,480
52		EUGLENOPHYCEAE	240		480	240		240					720	480			1,680	720	280	120
53	緑藻植物	PRASINOPHYCEAE	1,680	3,360	960	10,080	11,040	8,640	480	11,520	480	11,520	3,840	9,840	1,920	9,600	19,920	53,040	3,320	8,840
54	不明	微小鞭毛藻類	2,880	9,120	6,000	12,000	5,760	3,840	3,840	5,760	1,440	5,760	4,800	3,840	4,320	1,920	25,200	36,480	4,200	6,080
		合計	261,300	304,020	258,120	332,280	387,900	384,780	284,340	386,520	315,720	400,920	359,640	373,860	1,867,020	2,182,380	4,099,400	311,170	(100.0)	363,730
		出現種数	35	32	36	38	41	35	36	38	35	40	41	43	52	53	54			

注1) 平均細胞数の ( ) 内数値は総数に対する組成率 (%) を示す。

注2) 平均細胞数は小数第1位を、組成率は小数第2位をそれぞれ四捨五入していることから、各種の計と合計値は一致しない場合がある。



資料-8.1 海藻草類  
(L-A-②) (1)

調査年月日： 令和7年5月16日  
調査方法： ベルトトランセクト法  
調査機関： 東北電力株式会社

単位：%

分類群	出現種	距離 (m)	0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	110	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180	185	190	195	200	205	210	215	220	225	230	235	240	245	
	全体被度																																																			
41 褐藻植物	コモングサ		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			
42	ウガノモク		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
43	アカモク		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
44 緑藻植物	アオサ属		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
45	ジュズモ属		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
46	シオグサ属		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
47	ツユノイト属		+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
48 種子植物	スガモ																																																			

注1) 「被度」とは1m×1m方形枠(1m<sup>2</sup>)の海底面に対して、その枠中で海藻草類により覆われている面積を百分率で表したものをいい、「+」は海藻草類の被度が5%未満であることを示す。  
注2) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含めていない。



(L-A-②) (2)

単位：%

分類群	距離 (m)	250	255	260	265	270	275	280	285	290	295	300	305	310	315	320	325	330	335	340	345	350	355	360	365	370	375	380	385	390	395	400	405	410	415	420	425	430	435	440	445	450	455	460	465	470	475	480	485	490	495
	出現種 / 全体被度																																																		
41 海藻植物	コモンガサ																																																		
42	ウガノモク																																																		
43	アカモク																																																		
44 緑藻植物	アオサ属																																																		
45	ジュズモ属																																																		
46	シオグサ属																																																		
47	ツユノイト属																																																		
48 種子植物	スガモ																																																		

注1) 「被度」とは1m×1m方形状(1m<sup>2</sup>)の渾底面に対して、その枠中で海藻類により覆われている面積を百分率で表したものをいい、「+」は海藻類の被度が5%未満であることを示す。

注2) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれない。









資料-8.1 海藻草類  
(L-B) (1)

調査年月日： 令和7年5月22日  
 調査方法： ベルトトランセクト法  
 調査機関： 東北電力株式会社

単位：%		0	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	110	120	130	140	150	160	170	180	185	190	195	200	205	210	215	220	225	230	235	240	245
分類群	出現種 / 全体被度																																										
1 紅藻植物	アマノリ属																																										
2	イソキリ																																										
3	サビ亜科																																										
4	イワノカワ科																																										
5	ユルチギヌ属																																										
6	ペニスナゴ																																										
7	ダルス																																										
8	イギス科																																										
9	イソハギ																																										
10	ダミア科																																										
11	ハイウスバノリ属																																										
12	ヌメハノリ																																										
13	ハブタエノリ																																										
14	スズシロノリ																																										
15	ソソ属																																										
16	イトグサ属																																										
17	コザネモ																																										
18 褐藻植物	ケウルシグサ																																										
19	フクロノリ																																										
20	ワカメ																																										
21	スジメ																																										
22	マコンブ																																										
23	コンブ科 幼体																																										
24 緑藻植物	アオサ属																																										
25	ツユノイト属																																										

注1) 「被度」とは1m×1m方形枠(1m<sup>2</sup>)の海底面に対して、その枠中で海藻草類により覆われている面積を百分率で表したものをいう。



















(L-C-①) (4)

単位：%

分類群	出頭種 / 全体被度		距離 (m)																		
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
1 紅藻植物																					
2 アマノリ属																					
3 カキノリ																					
4 ヨレクサ																					
5 オバクサ																					
6 イソキリ																					
7 ヤハズシコロ																					
8 ビリヒバ																					
9 サビ亜科																					
10 ミチガエソウ																					
11 タンハノリ																					
12 キントキ属																					
13 イワノカワ科																					
14 ツノマタ属																					
15 アカハギナンナンソウ																					
16 ベニスナゴ																					
17 ハリガネ																					
18 ユカリ																					
19 ダルス																					
20 アナダルス																					
21 イギス科																					
22 イソハギ																					
23 ダリア科																					
24 ハイウスバノリ属																					
25 スメハノリ																					
26 ハブタエノリ																					
27 スズシロノリ																					
28 ソソ属																					
29 フジマツモ																					
30 イトダザ属																					
31 褐藻植物																					
32 コザネモ																					
33 フクロノリ																					
34 カヤモノリ																					
35 ハバモドキ																					
36 ムチモ																					
37 クロガシラ属																					
38 ケウルシダ																					
39 ワカメ																					
40 スジメ																					
マコンブ																					
コンブ科 幼体																					

注1) 「被度」とは1m×1m方形形枠(1m<sup>2</sup>)の海底面に対して、その枠中で海藻草類により覆われている面積を百分率で表したものをいい、「+」は海藻草類の被度が5%未満であることを示す。

注2) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に言及していない。

(L-C-2) (4)

単位：%

分類群	距離 (m)		750	755	760	765	770	775	780	785	790	795	800	805	810	815	820	825	830	835	840	845	850	855	860	865	870	875	880	885	900	905	910	915	920	925	930	935	940	945	950	955	960	965	970	975	980	985	990	995
	出現種 /	全体被度																																																
41] 海藻植物	エゾヤハズ																																																	
42	サナダグサ	+																																																
43	コモングサ																																																	
44	ウガノモク																																																	
45	フシスジモク																																																	
46	アカモク																																																	
47] 緑藻植物	アオサ属	+																																																
48	フトシユズモ																																																	
49	ジュズモ属																																																	
50	シオグサ属																																																	
51	ツユノイト属																																																	
52] 種子植物	スガモ	+																																																

注1) 「被度」とは1m×1m方形枠(1m<sup>2</sup>)の海底面に対して、その枠中で海藻類により覆われている面積を百分率で表したものをいい、「+」は海藻類の被度が5%未満であることを示す。  
 注2) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれない。





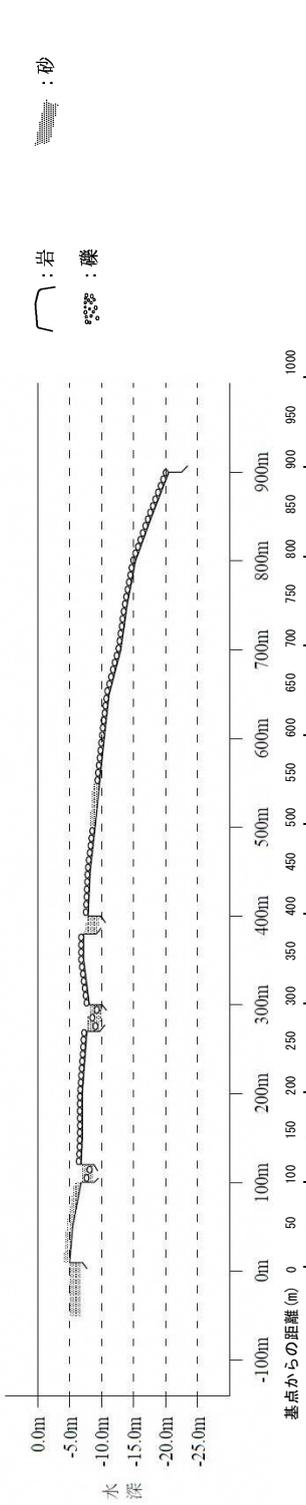




資料-8.2 海藻草類 (海藻群落垂直断面分布)  
(L-A-①)

Line-A (令和7年05月)

調査年月日： 令和7年5月16日  
調査方法： ベルトトランセクト法  
調査機関： 東北電力株式会社



分類群	出現種/全体被度	出現種/全体被度
1 配藻植物	アマノリ属	アマノリ属
2	カキノリ	カキノリ
3	ヨレクサ	ヨレクサ
4	オバクサ	オバクサ
5	イソキリ	イソキリ
6	ヤハズシコロ	ヤハズシコロ
7	ビリヒバ	ビリヒバ
8	サビ亜科	サビ亜科
9	ムカデノリ	ムカデノリ
10	タンハノリ	タンハノリ
11	フダラク	フダラク
12	キントキ属	キントキ属
13	イワノカワ科	イワノカワ科
14	ツノマタ属	ツノマタ属
15	アカハギナンソウ	アカハギナンソウ
16	ベニスナゴ	ベニスナゴ
17	ハリガネ	ハリガネ
18	ユカリ	ユカリ
19	タオヤギソウ	タオヤギソウ
20	イギス科	イギス科
21	ダミア科	ダミア科
22	ハイウスバノリ属	ハイウスバノリ属
23	ヌメハノリ	ヌメハノリ
24	ハブタエノリ	ハブタエノリ
25	スズシロノリ	スズシロノリ
26	ソソ属	ソソ属
27	イトグサ属	イトグサ属
28	ホソコザネモ	ホソコザネモ
29	コザネモ	コザネモ
30 褐藻植物	ネバリ毛属	ネバリ毛属
31	フクロノリ	フクロノリ
32	ケウルシグサ	ケウルシグサ
33	ワカメ	ワカメ
34	スジメ	スジメ
35	マコブ	マコブ
36	コブ科 幼体	コブ科 幼体
37	アマミグサ	アマミグサ
38	フクリンアミジ	フクリンアミジ
39	サナダグサ	サナダグサ
40		

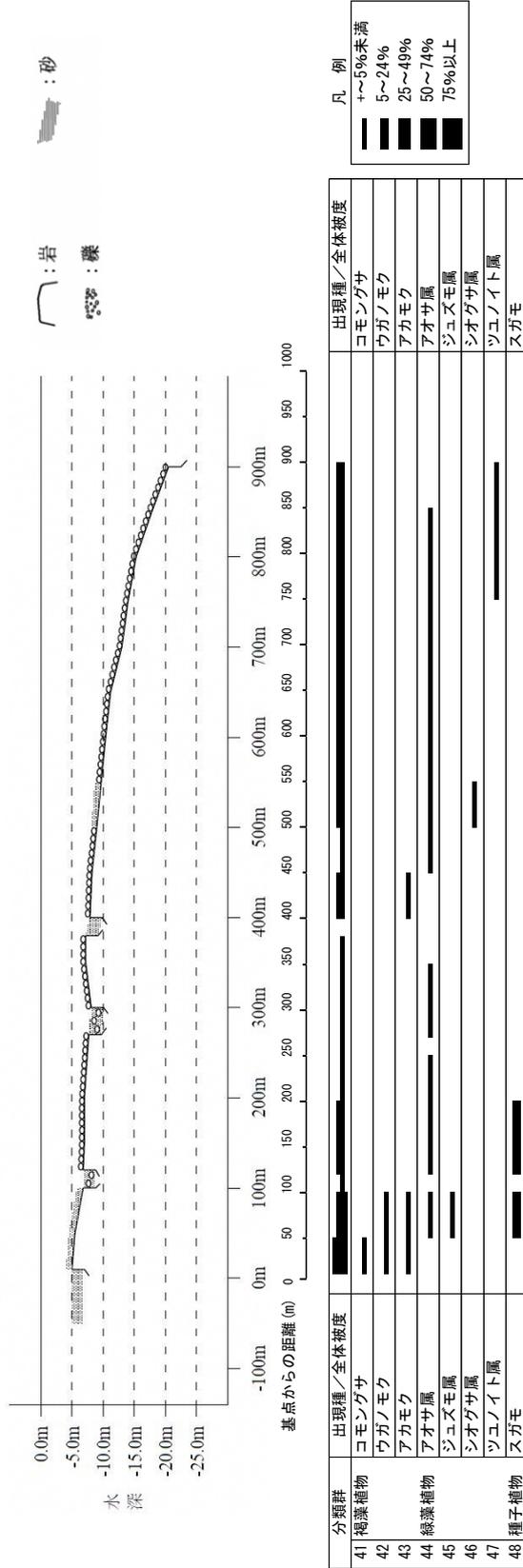


注1) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれていない。

## 資料一8.2 海藻草類 (海藻群落垂直断面分布) (L-A-②)

Line-A (令和7年05月)

調査年月日： 令和7年5月16日  
 調査方法： ペルトトランセクト法  
 調査機関： 東北電力株式会社



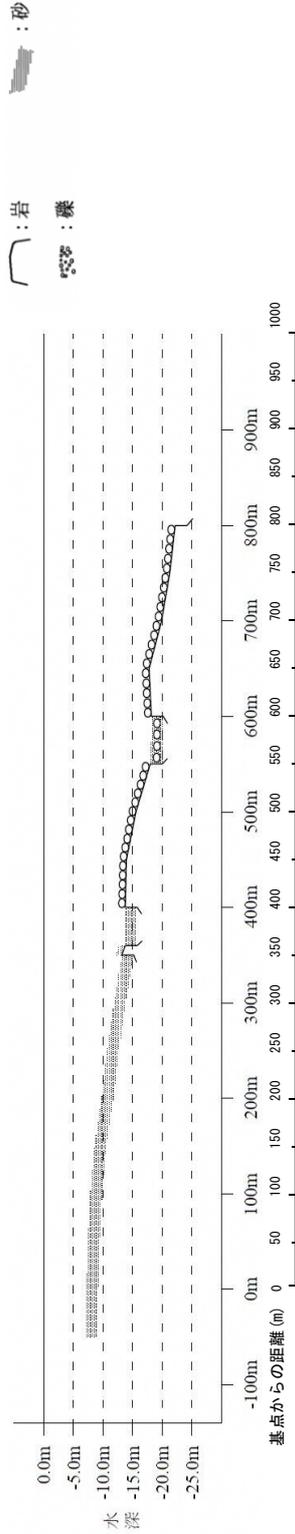
分類群	出現種/全体被度	出現種/全体被度
41 褐藻植物	コモングサ	コモングサ
42	ウガノモク	ウガノモク
43	アカモク	アカモク
44 緑藻植物	アオサ属	アオサ属
45	ジュズモ属	ジュズモ属
46	シオグサ属	シオグサ属
47	ツユノイト属	ツユノイト属
48 種子植物	スガモ	スガモ

注) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれていない。

資料一8.2 海藻草類 (海藻群落垂直断面分布)  
(L-B)

Line-B(令和7年05月)

調査年月日： 令和7年5月22日  
調査方法： ベルトトランセクト法  
調査機関： 東北電力株式会社



分類群	出現種/全体被度	出現種/全体被度
1 紅藻植物	アマノリ属	アマノリ属
2	イソキリ	イソキリ
3	サビ亜科	サビ亜科
4	イワノカワ科	イワノカワ科
5	ユルチギヌ属	ユルチギヌ属
6	ベニスナゴ	ベニスナゴ
7	ダルス	ダルス
8	イギス科	イギス科
9	イソハギ	イソハギ
10	ダミア科	ダミア科
11	ハイウスバノリ属	ハイウスバノリ属
12	ヌメハノリ	ヌメハノリ
13	ハブタエノリ	ハブタエノリ
14	スズシロノリ	スズシロノリ
15	ソソ属	ソソ属
16	イトグサ属	イトグサ属
17	コサネモ	コサネモ
18	フクロノリ	フクロノリ
19	ケウルシグサ	ケウルシグサ
20	ワカメ	ワカメ
21	スジメ	スジメ
22	マコンブ	マコンブ
23	コンブ科 幼体	コンブ科 幼体
24	アオサ属	アオサ属
25	ツユノイト属	ツユノイト属

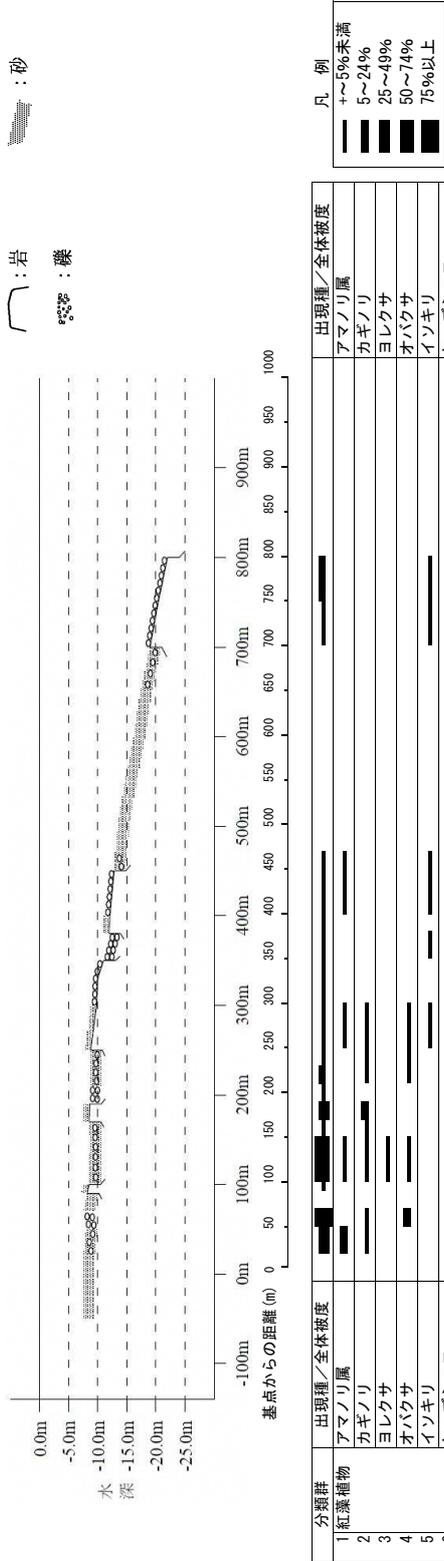
凡例  
+~5%未満  
5~24%  
25~49%  
50~74%  
75%以上

注1) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれていない。

資料-8.2 海藻草類 (海藻群落垂直断面分布)  
(L-C-①)

調査年月日： 令和7年5月21日  
調査方法： ベルトラントランセクト法  
調査機関： 東北電力株式会社

Line-C (令和7年05月)



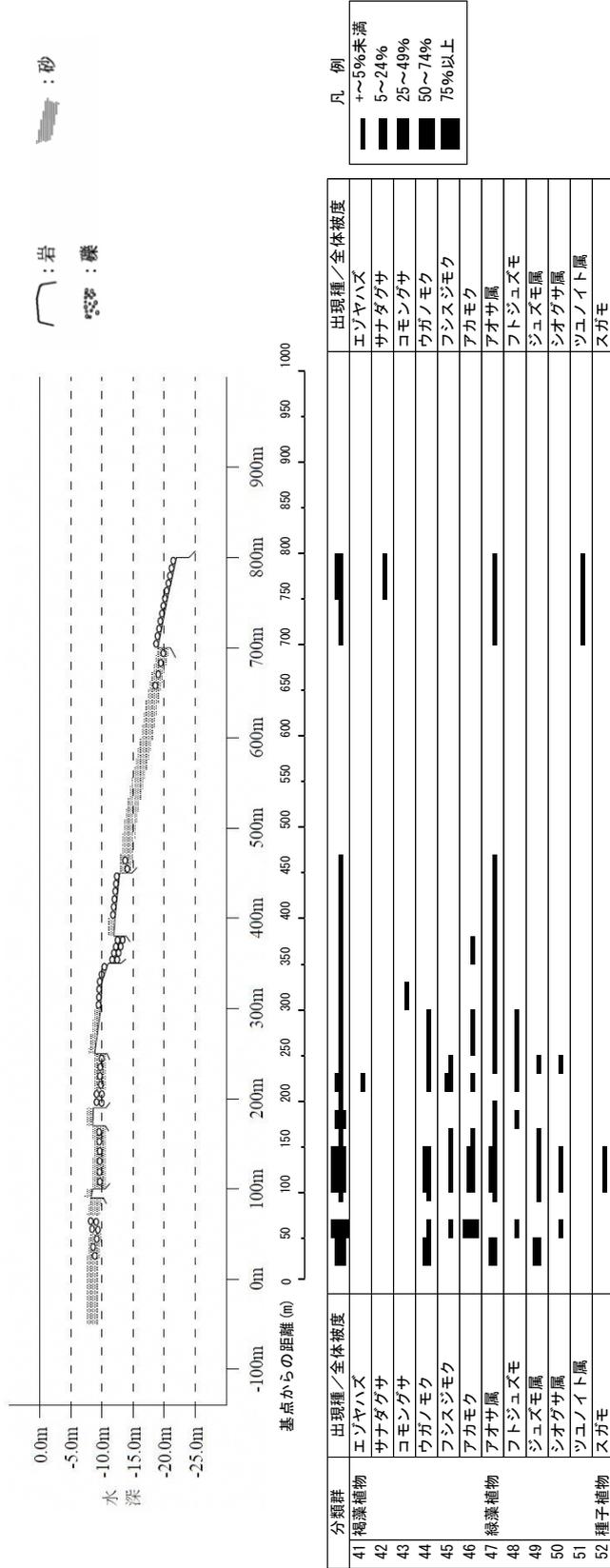
分類群	出現種/全体被度	出現種/全体被度
1 配藻植物	アマノリ属	アマノリ属
2	カキノリ	カキノリ
3	ヨレクサ	ヨレクサ
4	オバクサ	オバクサ
5	イソキリ	イソキリ
6	ヤハズシコロ	ヤハズシコロ
7	ビリヒバ	ビリヒバ
8	サビ亜科	サビ亜科
9	ミチガエソウ	ミチガエソウ
10	タンハノリ	タンハノリ
11	キントキ属	キントキ属
12	イワノカワ科	イワノカワ科
13	ツノマタ属	ツノマタ属
14	アカハギナンソウ	アカハギナンソウ
15	ベニスナゴ	ベニスナゴ
16	ハリガネ	ハリガネ
17	ユカリ	ユカリ
18	ダルス	ダルス
19	アナダルス	アナダルス
20	イキス科	イキス科
21	イソハギ	イソハギ
22	ダリア科	ダリア科
23	ハイウスハノリ属	ハイウスハノリ属
24	ヌメハノリ	ヌメハノリ
25	ハブタエノリ	ハブタエノリ
26	スズシロノリ	スズシロノリ
27	ソノ属	ソノ属
28	フジマツモ	フジマツモ
29	イトグサ属	イトグサ属
30	コザネモ	コザネモ
31 褐藻植物	フクロノリ	フクロノリ
32	カヤモノリ	カヤモノリ
33	ハバモドキ	ハバモドキ
34	ムチモ	ムチモ
35	クロガシラ属	クロガシラ属
36	ケウルシグサ	ケウルシグサ
37	ワカメ	ワカメ
38	スジメ	スジメ
39	マコノブ	マコノブ
40	コノブ科 幼体	コノブ科 幼体

注1) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含めていない。

資料一8.2 海藻草類 (海藻群落垂直断面分布)  
(L-C-②)

調査年月日 : 令和7年5月21日  
調査方法 : ベルトトランセクト法  
調査機関 : 東北電力株式会社

Line-C (令和7年05月)

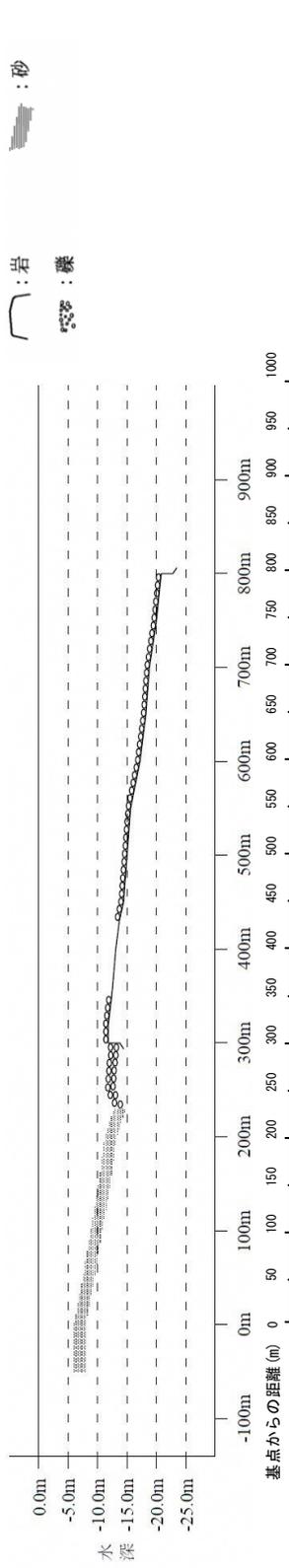


注) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれていない。

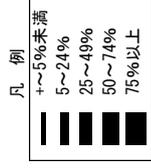
## 資料一8.2 海藻草類（海藻群落垂直断面分布） (L-D)

調査年月日： 令和7年5月14日  
 調査方法： ベルトトランセクト法  
 調査機関： 東北電力株式会社

Line-D(令和7年05月)



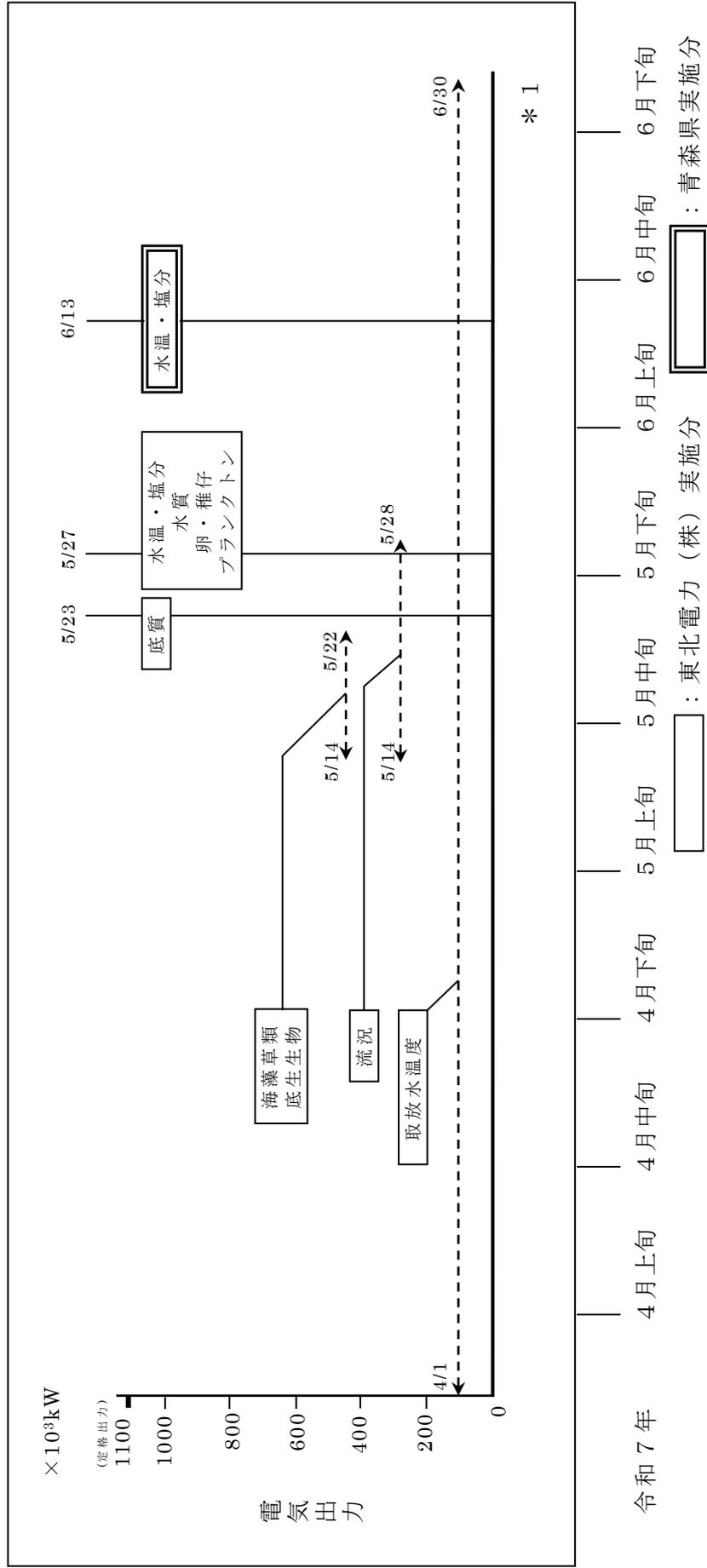
分類群	出現種/全体被度	出現種/全体被度
1 紅藻植物	イソキリ	
2	サビ亜科	
3	イワノカワ科	
4	ベニサゴ	
5	アナダルス	
6	イギス科	
7	ダシア科	
8	ハイウスバノリ属	
9	ヌメハノリ	
10	ハブタエノリ	
11	スズシロノリ	
12	ソゾ属	
13	ホソコザネモ	
14	コザネモ	
15	フクロノリ	
16	ウルシグサ	
17	タバコグサ	
18	ケウルシグサ	
19	ワカメ	
20	スジメ	
21	マコシブ	
22	コンブ科 幼体	
23	アミジグサ	
24 緑藻植物	アオサ属	
25	ツユノイト属	



注1) サビ亜科、イワノカワ科は、全体被度に含まれていない。



(4) 運転状況・調査スケジュール



\* 1 : 平成23年2月6日より第4回定期事業者検査中のため、発電を停止しているので電気出力は0kWとなっている。

東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書(令和7年度第1四半期報)

青森県

**東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書**

**(令和7年度第1四半期報)**

**発行 令和7年11月**

青森県農林水産部水産局水産振興課

〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

電話 (017) 722-1111 (内線 4659)

FAX (017) 734-8166